



訪ねたい、滞在したい郡上づくり

【郡上市観光振興ビジョン】



平成22年3月

郡 上 市

はじめに

郡上市は、多くの観光資源を持ち、自然に抱かれた歴史あるまちです。合併して6年、観光資源の広域的な連携がされていないという現状がある中、「郡上はひとつ」ということを強く意識し、未来へ向けて末長く観光のまちとして輝き続けることを願ってこの観光振興ビジョンを策定しました。



郡上市が有する地域の豊かさを持続し、発展させるためには観光、すなわち交流産業の振興が核になると言えます。多くのみなさまに郡上を訪れて楽しんでいただくとともに、市民のみなさまにも大いに市内を観光してふるさとの良さを知っていただきながら、みんなで郡上市の魅力为全国へ発信していきたいと考えています。また、子どもたちにふるさとの自然、歴史、文化などを伝えることで、郡上人としての素地が育まれることを期待します。この観光振興ビジョン策定を契機に、観光関係者のみなさま、市民のみなさまと一体となって「訪ねたい、滞在したい郡上づくり」を進めたいと考えています。

結びに、この観光振興ビジョンの策定にあたり貴重なご意見やご助言を賜りました策定検討委員、アドバイザー、ワーキング委員のみなさま、またパブリックコメントをいただきました市民のみなさまに心から厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

郡上市長

日置敏明

目 次

第1章	ビジョン策定の背景と目的	
1	ビジョン策定の背景	1
2	ビジョン策定の目的	2
3	計画年度	2
4	郡上市総合計画における位置づけ	3
第2章	観光を取り巻く現状と課題	
1	国の取り組み	4
2	岐阜県の取り組み	6
3	郡上市の観光の現状と課題	9
	(1) 観光動向	
	(2) 交通の状況	
	(3) 郡上市の取り組み	
第3章	基本構想	
1	観光振興の基本理念	19
2	観光振興の基本目標	20
3	郡上市の観光の目指す姿	21
第4章	基本計画	
1	概要	22
2	主な施策	
	(1) 歴史と文化にふれるまち郡上	24
	(2) 日本一のおどりのまち郡上	27
	(3) ウィンターリゾート郡上	28
	(4) アウトドアリゾート郡上	29
3	地域の付加価値を向上するために取り組む施策	
	(1) 自然と水	32
	(2) 「旬のもの」の提供と「食」のブランド化、温泉	33
	(3) 産業、スポーツ、音楽を通じた観光	37
	(4) 着地型観光の推進と交流、おもてなし	39
	(5) 受け入れインフラ整備	40
第5章	ビジョンの実現のために	
1	ビジョン推進のしくみづくり	43
2	さまざまな連携のあり方	44
3	情報発信	46

第1章 ビジョン策定の背景と目的

1. ビジョン策定の背景

郡上市における観光は、高度経済成長と平行して、郡上おどりの全国区化やスキー場の開発整備が進められ、この2つの観光を中心として、郡上八幡城や鍾乳洞などの観光施設を見学するというスタイルが主流でした。平成に入り、週休二日制の浸透と高齢者の増加等により余暇を多く持つ人が増えたことから、観光客の増加とともにそのニーズも、市内散策や地域の生活や文化に触れる観光、体験、温泉利用、音楽祭や鮎釣り大会といったイベント参加など多様化してきています。また、各地域では、白山文化や古今伝授、円空など、特色ある歴史や文化に着目して魅力ある地域づくりが行われてきています。現在は年間640万人以上が訪れる県下でも有数の観光地となっており、先人の知恵や工夫、努力などその主体的な取り組みに対して尊敬の念を抱くところです。

郡上市へ観光に訪れるための移動手段は、モータリゼーションの普及と高速道路網の整備が進んだことから、公共交通機関から自家用車が主流となってきました。特に平成20年7月には東海北陸自動車道が全線開通し、中京圏と北陸圏が短時間で移動できるようになり、拍車を掛けています。

経済状況は、バブル崩壊後の不況に続き、米国における大きな金融破綻に端を発した経済危機の影響は郡上市も被っているところです。こうした中、平成20年の観光客数は前年より伸びを示し、一条の光を放つ分野となっています。

一方、郡上市は合併して6年を経過したところですが、観光振興の分野では、旧町村の枠を超えることなく地域内での取り組みに留まっている部分が多くあります。地域が広いことも原因の一つですが、多くの観光資源に恵まれながらそれらを広域的に生かす仕組みがまだできていません。組織においても、市の観光連盟が設立されてはいるものの、合併前からの各地域の観光協会組織もそのまま継続されており、より一層の連携が求められるところです。今まさに観光の推進組織のあり方を見直すとともに、「郡上全体でサービスする」という強い意識の中で、「郡上はひとつ」を目指した観光地づくりが求められるところです。

また、640万人以上の観光客のうち宿泊者が47万人であり、観光客の4

人に1人が宿泊している高山市に比べ低い現状にあります。

さらには、公共交通機関が十分に整備されていないことも課題です。観光地点へのアクセスは実質的に車しかありません。また高速バス停から市街地へのアクセスも不便です。

郡上市は人口減少・高齢化が進んでおり、それに伴い産業経済力の低下が懸念されています。この課題を克服するためには、多様な観光資源を持つ郡上市において、観光振興が大きな役割を担っていると考えます。

2. ビジョン策定の目的

これからの郡上市の観光は、行政と市民が共に力を合わせて、観光のまちを意識し、自然と歴史・文化を大切に守りながら、本物と個性を磨いて魅力あるまちづくりを推進することで、訪れる人に感動を与え、いつまでも愛されて次世代へ継続していくことを目指します。

また、世界的な不況が続いている今日、今後も絶えず経済社会の環境変化が生じると考えます。この変化により他の観光地が大きな影響を受ける中で、郡上市は、景気が悪化した時でもその影響を最小限にとどめて着実に前進する、国内外の観光客が憧れる観光地づくりを目指します。

こうした観光のまちづくりを進めるにあたり、常にその方向を見失わず、かつ強く意識するために、観光振興ビジョンを策定します。

3. 計画年度

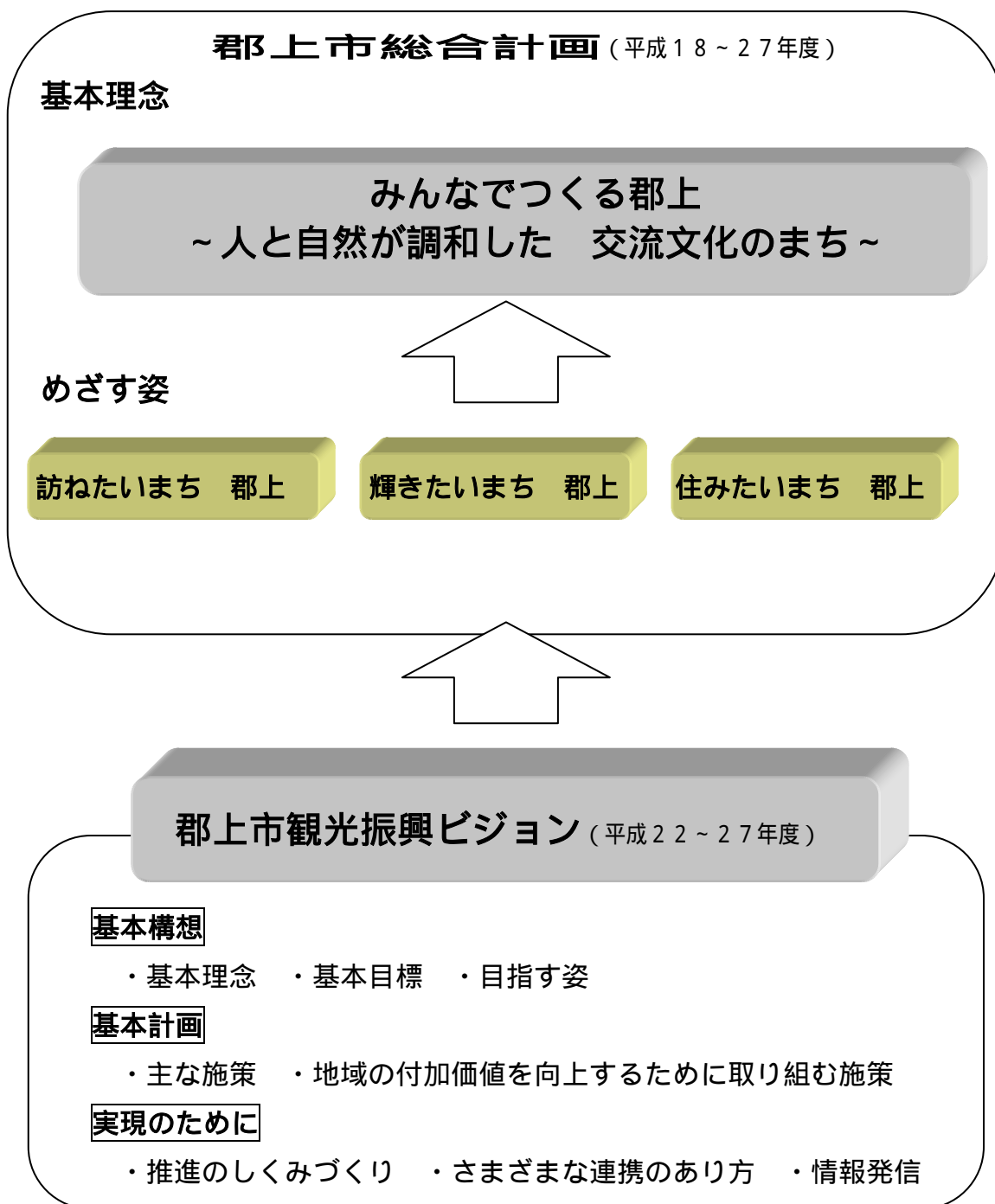
郡上市総合計画と足並みを揃えて、郡上市総合計画の最終計画年度の27年度を本ビジョンでも最終年度と定めます。

策定 = 平成21年度

計画期間 = 平成22年度～27年度（6年間）

4. 郡上市総合計画における位置づけ

本ビジョンは、上位計画である郡上市総合計画の「人と自然が調和した交流文化のまち」を基本理念とした、「訪ねたいまち」「輝きたいまち」「住みたいまち」の実現を目指すため、観光分野での方針を定めるものです。



第2章 観光を取り巻く現状と課題

1. 国の取り組み

平成18年12月13日に観光立国推進基本法が成立し、平成19年1月1日から施行されました。この法律は、『21世紀の我が国の経済社会の発展のために観光立国を実現することが極めて重要であることにかんがみ、観光立国の実現に関する施策に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、観光立国の実現に関する施策の基本となる事項を定めることにより、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民経済の発展、国民生活の安定向上及び国際相互理解の増進に寄与すること』を目的としています。

さらには、平成20年10月1日には国土交通省の外局として観光庁が設置され、訪日外国人旅行者の増（目標：2019年までに2,500万人）や日本人一人当たりの国内旅行宿泊日数の増（目標4泊）などの目標を掲げています。政権交代から間もないところですが、2010年度の観光予算編成は、今年度当初の2.02倍である126億5千万円となっています。

観光庁の施策として、次の5つが掲げられています。

観光地づくり 国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを支援します。

国際観光 海外との観光交流を拡大します。

観光産業 旅行者ニーズに合った観光産業の高度化を支援します。

人材の育成・活用 観光分野に関する人材の育成と活用を促進します。

関連施策 休暇取得の推進や日本人海外旅行者の安全対策など観光をしやすい環境の整備を行います。

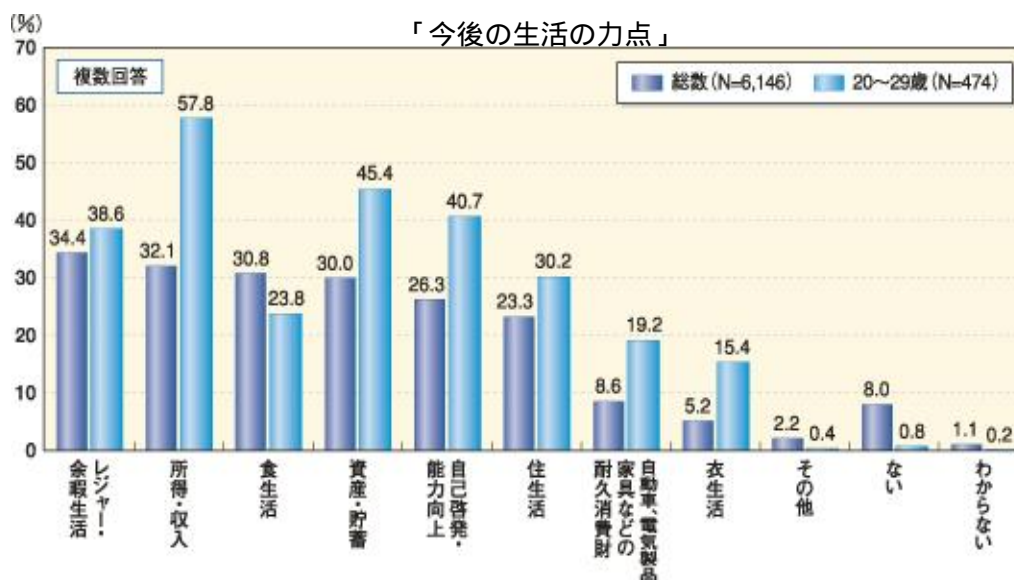
また、平成20年には観光圏整備法を制定し、自然、歴史、文化等で密接な関係のある観光地を「観光圏」として認定し、2泊3日以上滞在型観光に対応出来るよう、観光地の魅力を高めることについて支援する制度が定められています。すでに全国で30地域が認定されています。

このように、国は観光立国を目指し、積極的に観光施策を実施しています。この背景を、人々の生活力点に対する考え方と観光による経済効果の2点から概観してみます。

内閣府大臣官房政府広報室「国民生活に関する世論調査（平成20年6月調査）」によれば、今後の生活の力点として、レジャー・余暇生活が34.4%でトップとなっています。今後、団塊の世代が退職によって余暇を持つ時代がや

第2章 観光を取り巻く現状と課題

ってくることにより、ますますこの率は上がっていくと考えられますが、観光地にとっては、好機であり、いかにこの需要を捉えるかにかかっています。



(注) 内閣府大臣官房政府広報室「国民生活に関する世論調査」(平成20年6月調査)による。

また、平成21年度版観光白書によれば、平成19年度には、旅行が我が国にもたらす経済効果は、旅行消費額が23.5兆円、雇用も211万人(全就業者数の3.3%)であり、波及効果も生産波及効果が53.1兆円、雇用効果は441万人と、観光による経済効果はたいへん大きなものであることが分かります。

まさに、これからは観光産業が最重要であり、時代を担うということがいえます。

平成21年度観光白書「平成19年度旅行消費の我が国経済への貢献(経済効果)」



- (注) 1 国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」による。
 2 産業連関表国内生産額949.1兆円に対応(平成12年)。
 3 国民経済計算における名目GDP515.1兆円に対応(平成19年度)。
 4 国民経済計算における就業者数6,425万人に対応(平成18年度)。
 5 国税+地方税93.0兆円に対応(平成19年度)。
 6 ここで言う貢献度とは全産業に占める比率。

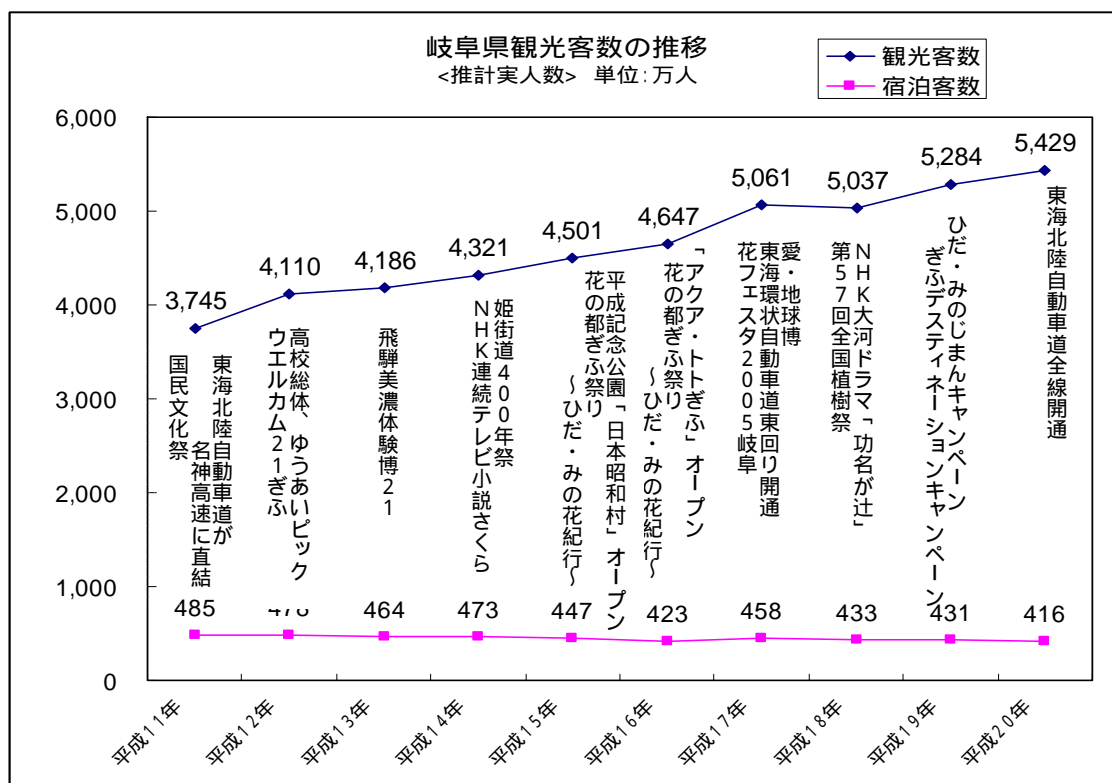
2. 岐阜県の取り組み

岐阜県では、平成20年度に観光ブランド振興課が産業労働観光部から総合企画部観光交流推進局へ所管部が変わりました。これは観光という部門が県でもリーディング分野であることを位置づけるものであり、観光立県を目指すという方向性が見てとれます。また、平成19年3月に岐阜県ブランド戦略を策定し、「地域の魅力を高め、観光交流を拡大し、消費を増やす」「人が集まり、経済が循環する、拠点性の高い地域をつくる」「人・モノの交流拡大につながる基盤を整備する」という方向性で観光振興を進めています。

また、岐阜県観光連盟では、「温泉」と「食」をテーマとして、全国各地の観光展での宣伝活動、ポスター・ガイドブックの作成、旅館や土産物の推奨などを行い岐阜県の観光を推進しています。

(1) 観光客数

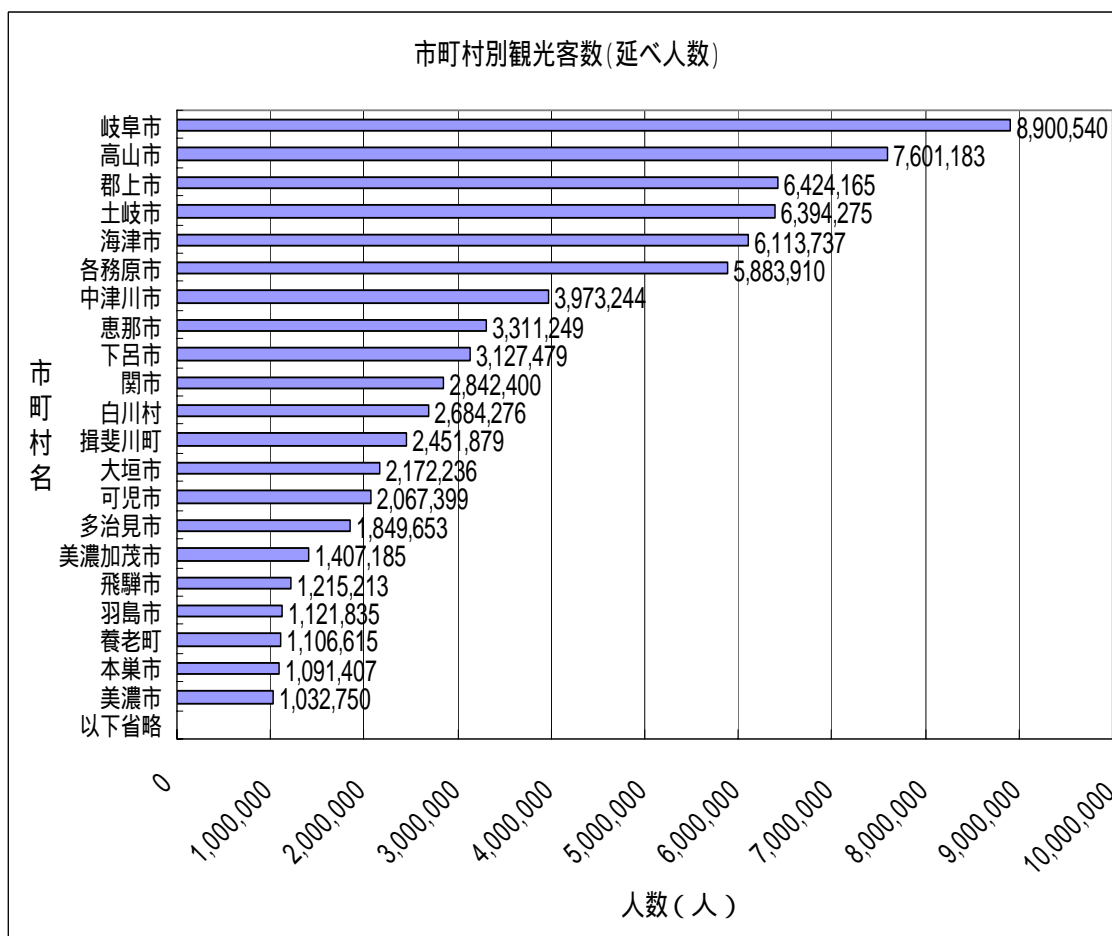
岐阜県の観光客は年々増加をしています。平成20年度も「飛騨・美濃じまんキャンペーン」や東海北陸自動車道の全線開通などが、観光客数を押し上げたものと思われます。



「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年」

第2章 観光を取り巻く現状と課題

市町村別の観光客数（延べ人数）は、岐阜市がトップで890万人、高山市が第2位で760万人、郡上市は第3位で642万人となっています。



(2) 宿泊客数

県内の宿泊客（述べ人数）は637万人であり、観光客全体（述べ人数7,879万人）のわずか8.0%しかありません。

【観光客に対する宿泊者数割合（圏域別）】

単位：人

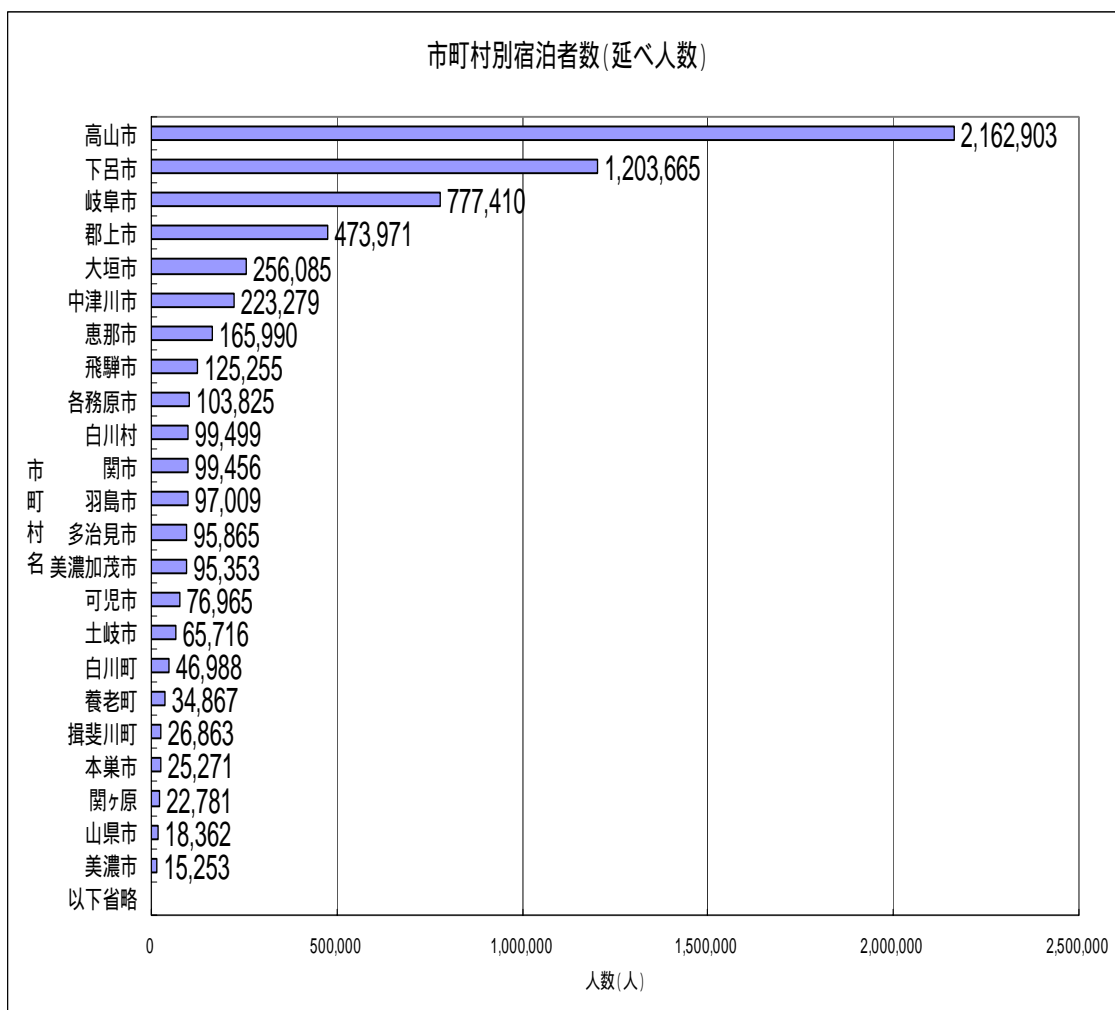
	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨	合計
観光客数	17,470,471	15,102,777	15,550,897	16,041,435	14,628,151	78,793,731
宿泊客数	1,021,877	361,639	830,639	564,612	3,591,322	6,370,089
宿泊者数構成比	5.8%	2.4%	5.3%	3.5%	24.6%	8.0%
割合	16.0%	5.7%	13.0%	8.9%	56.4%	100.0%

県全体の宿泊客数に対する圏域の宿泊客数の占める率

以上「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年」

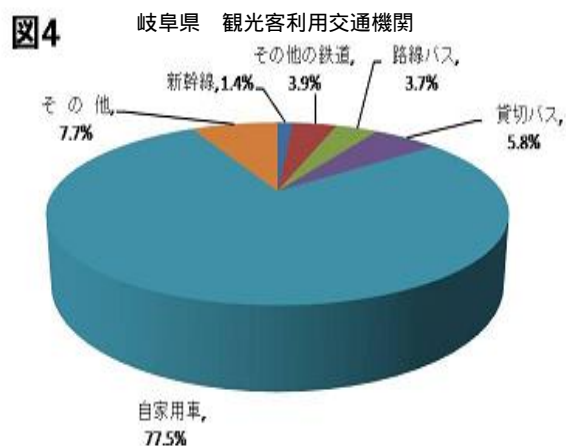
第2章 観光を取り巻く現状と課題

市町村別では、高山市が216万人でいちばん多く、次いで下呂市が120万人、郡上市は第4位で47万人となっています。



(3) 利用交通機関

観光客が利用した交通の手段は、自家用車が圧倒的に多く77.5%。一方、鉄道はわずか5.3%（新幹線、その他の鉄道の合計）となっています。



以上「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年」

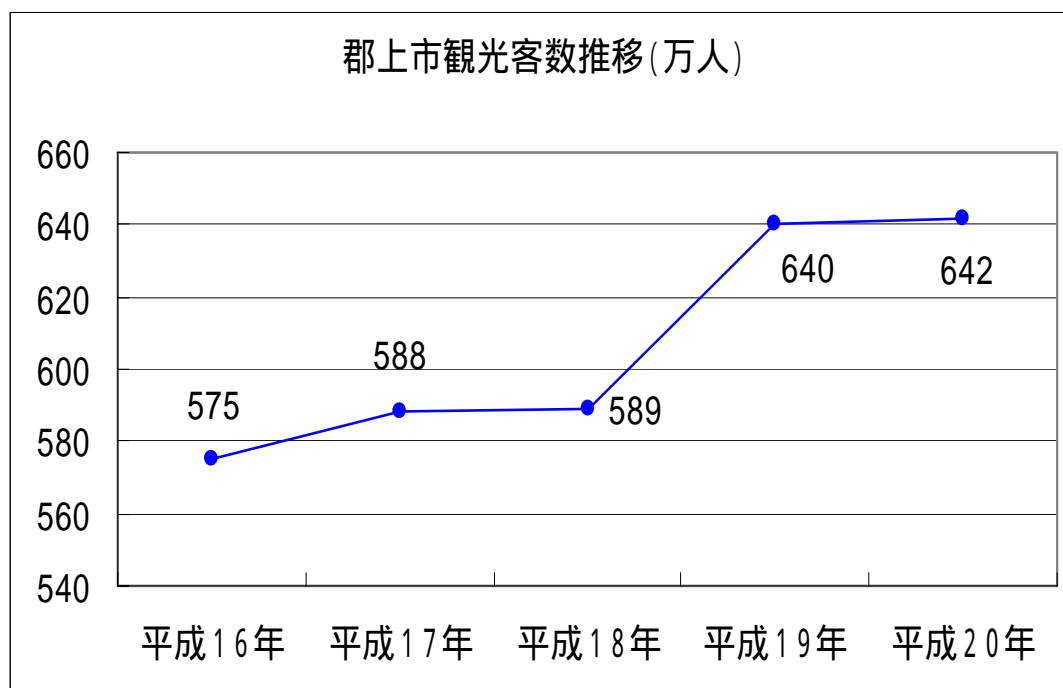
3. 郡上市の観光の現状と課題

郡上市の観光の特徴は、大きく分けるとスキー&スノーボード中心のウィンタースポーツ、鮎釣りやラフティング・カヌー、キャンプなどのアウトドアレジャー、もう一つが歴史と文化、さらには「おどり」です。特に歴史と文化については、「白山文化」「古今伝授の里」、既にブランド化された「城下町・郡上八幡」「高賀山と円空」と北から南へ郡上を貫き時系列でも独特の文化を持っており、それらは、どれも全国に誇れる極めて質の高い貴重な文化資源です。ところが現実には、ウィンタースポーツ以外は郡上八幡に観光客が集中しています。これを均等にするわけではありませんが、この独特の歴史や文化的な魅力によって域内の滞在時間を少しでも延ばし、宿泊につなげる観光を目指す必要があります。

(1) 観光動向

観光客数

平成20年の観光客数は延べ約642万人で、対前年比0.5%増となっており、年々増加しています。その数は岐阜県内では岐阜市、高山市に次いで3番目となっています(7頁の「市町村別観光客数」参照)。ちなみに平成18年から19年の大幅な増加は道の駅利用者数を追加したことによります。



「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年」

分類別観光客数

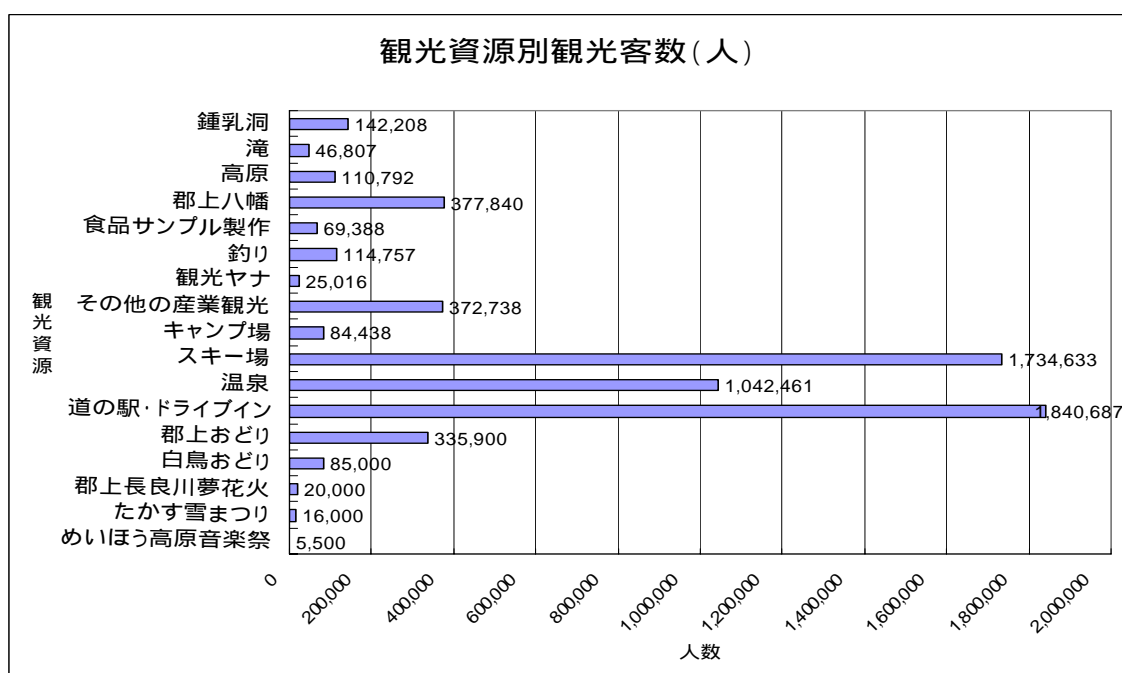
本市は、四季を通じてさまざまな観光資源に恵まれています。平成20年は観光地分類別で見ると、立ち寄り客の多い道の駅やドライブインでの買い物最多で、延べ約184万人となっています。次いで、キャンプ場やスキー場などのレクリエーションが約181万人、温泉104万人と上位3分類で全体の7割以上を占めています。この構成比は、前年とほぼ同じ傾向を示しています。

一方、分類別の対前年比で増加した項目は、「産業観光」「レクリエーション」「文化・歴史」でした。なかでも、食品サンプル製作体験が人気を集める「産業観光」が前年よりも27.3%の増と突出した伸びをみせています。

観光地分類別観光客数の推移（単位：人）

	自然	文化・歴史	産業観光	レクリエーション	温泉	買い物	行・祭事	イベント	計
H19	311,307	377,184	457,051	1,692,716	1,141,746	1,905,763	467,500	42,000	6,395,267
H20	299,807	377,840	581,899	1,819,071	1,042,461	1,840,687	420,900	41,500	6,424,165
前年比	96.3%	100.2%	127.3%	107.5%	91.3%	96.6%	90.0%	98.8%	100.5%

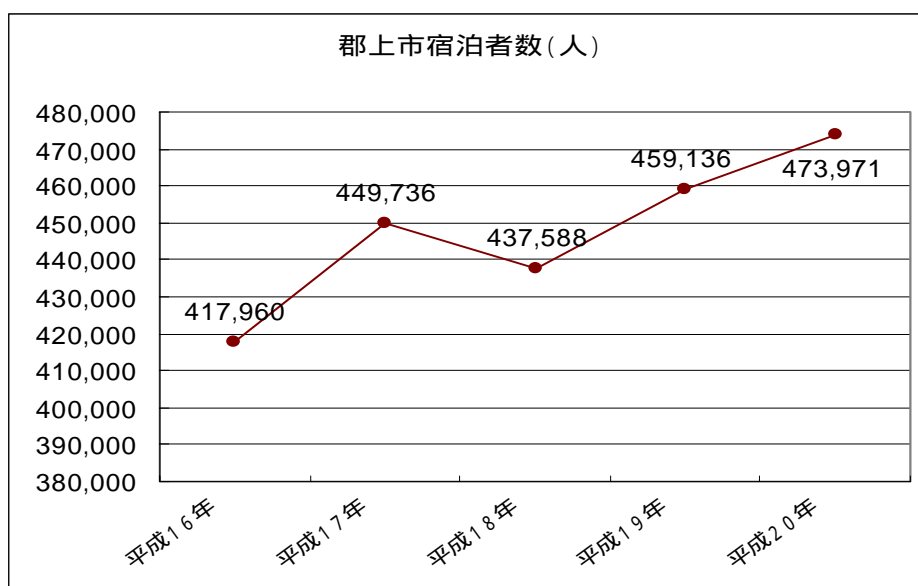
【分類説明】 自然(鍾乳洞、滝、高原) 文化・歴史(郡上八幡)
 産業観光(食品サンプル、釣り、ヤナ、その他)
 レクリエーション(自然体験施設、スキー場) 温泉(民営・市営温泉施設)
 買い物(道の駅、ドライブイン) 行・祭事(郡上おどり、白鳥おどり)
 イベント(長良川夢花火、たかす雪まつり、めいほう音楽祭)



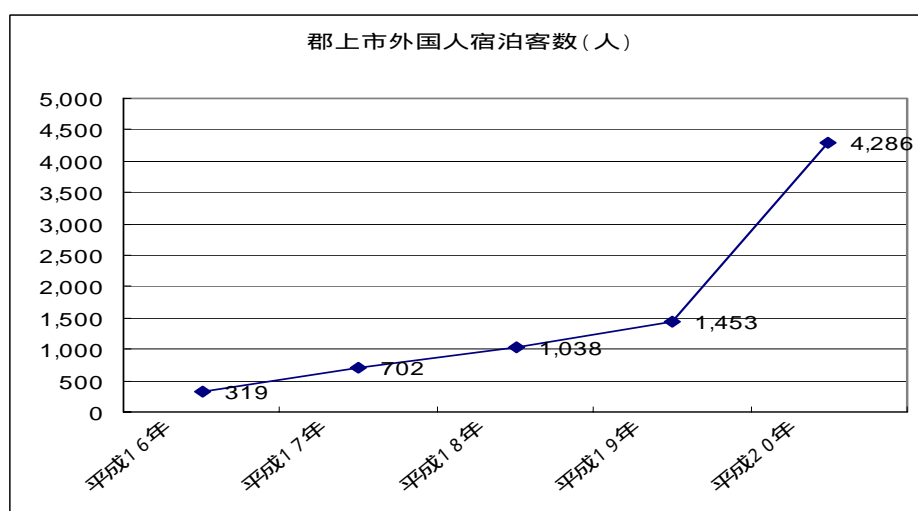
以上「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年度」

宿泊者数

宿泊者数も、平成16年から20年までの5年間に、約6万人伸びています（平成20年は47万人）。ただし、観光客全体に占める割合は、高山市の28.4%、下呂市の38.4%に対し、郡上市は7.3%と低い割合となっています。（8頁の「市町村別宿泊者数」参照）



また、近年に行っている外国での誘致キャンペーン等の事業の成果が出始め、東アジアを中心に外国人の宿泊者が急増しています。



以上「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年」

月別に見ると、8月が最も多く、7～8月に全体の31%が集中しています。この傾向はどの地域にも共通しています。また、1～2月も23%と高い割合

第2章 観光を取り巻く現状と課題

となっておりますが、これはスキー場のある白鳥・高鷲・明宝地域が1～2月も7～8月に近い数値となっているところからきています。その他の地域は、夏場に比べて冬場にはかなり宿泊客数が下がっています。

郡上市内地域別・月別宿泊客数(単位:人)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月
八幡	宿泊客数	4,334	4,631	4,389	5,902	12,648	12,076
	(外国人)	89	306	93	356	520	139
大和	宿泊客数	91	146	97	47	118	91
	(外国人)	0	0	0	0	0	0
白鳥	宿泊客数	7,980	7,739	5,645	1,785	2,835	1,583
	(外国人)	0	24	16	35	0	35
高鷲	宿泊客数	38,929	39,473	23,666	10,541	16,539	8,033
	(外国人)	48	206	11	0	35	70
美並	宿泊客数	174	134	161	298	662	415
	(外国人)	0	0	0	0	0	0
明宝	宿泊客数	2,959	3,047	1,902	343	1,300	498
	(外国人)	4	0	0	0	4	0
和良	宿泊客数	20	0	31	165	805	199
	(外国人)	0	0	0	0	0	0
合計	宿泊客数	54,487	55,170	35,891	19,081	34,907	22,895
	(外国人)	141	536	120	391	559	244

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
八幡	宿泊客数	19,157	24,039	8,986	9,341	6,707	5,291	117,501
	(外国人)	174	133	362	250	200	204	2,826
大和	宿泊客数	684	731	104	80	154	54	2,397
	(外国人)	0	0	0	0	0	0	0
白鳥	宿泊客数	4,991	12,966	2,959	2,340	1,775	4,463	57,061
	(外国人)	64	98	20	12	2	1	307
高鷲	宿泊客数	22,133	44,876	13,830	11,334	10,925	16,128	256,407
	(外国人)	43	18	3	21	2	9	466
美並	宿泊客数	1,975	3,426	1,129	1,464	931	446	11,215
	(外国人)	25	250	86	260	0	0	621
明宝	宿泊客数	2,680	6,016	1,144	572	592	1,239	22,292
	(外国人)	11	47	0	0	0	0	66
和良	宿泊客数	1,358	3,044	856	512	99	9	7,098
	(外国人)	0	0	0	0	0	0	0
合計	宿泊客数	52,978	95,098	29,008	25,643	21,183	27,630	473,971
	(外国人)	317	546	471	543	204	214	4,286

「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年」 地域別数値再計算版

(2) 交通の状況

道路

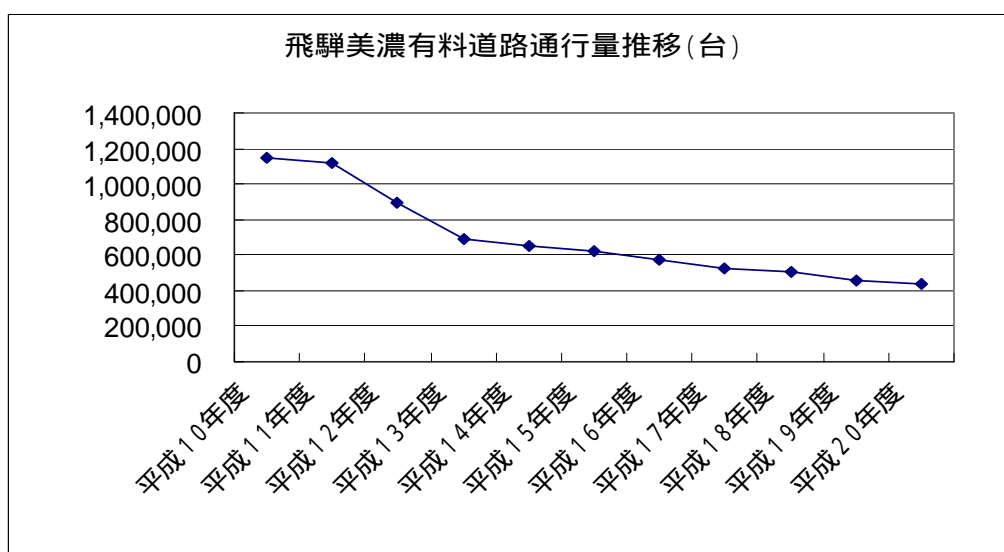
東海北陸自動車道が平成20年7月に全線開通し、中京圏と北陸圏が郡上市を經由して結ばれました。また、今年度の国土開発幹線自動車道建設会議(国幹会議)で、白鳥IC～飛騨清見ICの4車線化が了承されており、実現すれば、郡上市内全線4車線化ということになります。この道路の特徴として、白川郷・五箇山の世界遺産、高山市(中部縦貫道経由)、高鷲と白鳥のスキー場、郡上八幡などの観光地を通る経路にあることから、休日の交通量が極めて多く、対面通行区間の手前では激しい渋滞が発生しています。また、全線開通後の交通量の増加も著しいものとなっています。

【東海北陸自動車道郡上市内各区分間通行量(日平均台数)】

	美並IC ～郡上八幡IC	郡上八幡IC ～ぎふ大和IC	ぎふ大和IC ～白鳥IC	白鳥IC ～高鷲IC	高鷲IC ～ひるがの高原SA
平成20年7月	17,006	13,624	12,932	11,886	11,274
前年比	126.8%	132.5%	136.9%	143.8%	158.1%

高速道路月報(高速道路と自動車2008年10月号)

一方、せせらぎ街道(国道472号線)の利用者は、平成10年度をピークに年々減少しており(飛騨美濃有料道路通行量)道の駅明宝の売上額も減っています。これは、平成10年度に東海北陸自動車道の白鳥ICが開通し、その後、高鷲IC、飛騨清見ICと開通したことで、八幡から高山方面への主要経路が、せせらぎ街道から東海北陸自動車道へ移ったことが要因と考えられます。



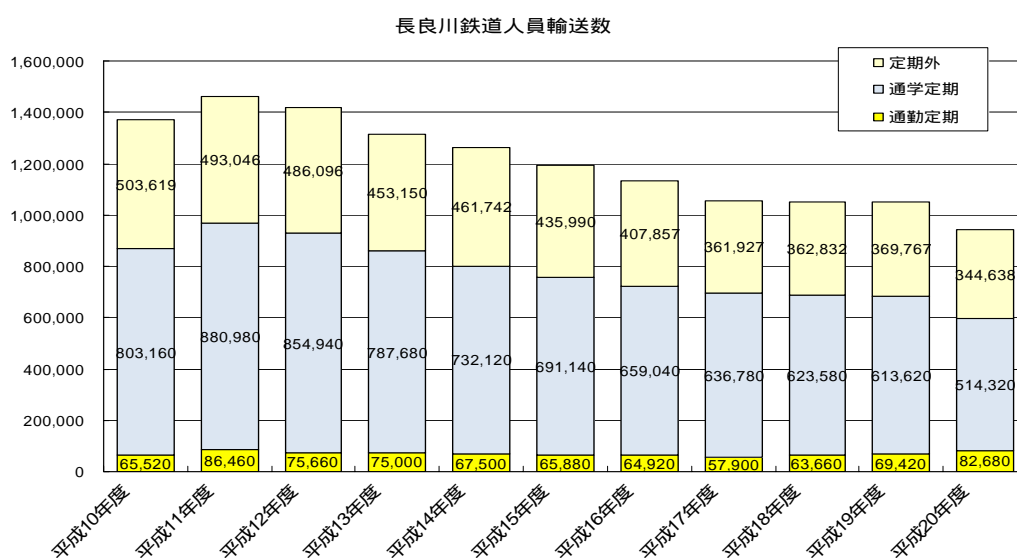
岐阜県道路公社提供

第2章 観光を取り巻く現状と課題

また、和良から金山へ通じる濃飛横断自動車道が現在整備中です。将来的には郡上八幡 I C に接続しますが、八幡～和良間は調査中の段階です。そのほかにも、ふるさと林道和良（鹿倉）～明宝（畑佐）線の開通が平成23年度に予定されています。これらの道路の整備が進むことで、下呂・金山も含めて、明宝と和良の車の流れがかなり変わるのではないかと予想されます。

②鉄道

郡上市内で唯一の鉄道である長良川鉄道は、1日上下線それぞれ12～14本運転されていますが、利用者は年々減少しています。通学通勤が6割、観光客等が4割という内訳ですが、ともに減少しており、この傾向は東海北陸自動車道が便利になればなるほど進行すると考えられます。長良川鉄道もさまざまなツアーやお得なセットの提供など努力がなされていますが、駅から目的地までの交通の不便さが最大の課題といえます。



単位：
人

人員輸送数	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
定期外	503,619	493,046	486,096	453,150	461,742	435,990	407,857	361,927	362,832	369,767	344,638
通学定期	803,160	880,980	854,940	787,680	732,120	691,140	659,040	636,780	623,580	613,620	514,320
通勤定期	65,520	86,460	75,660	75,000	67,500	65,880	64,920	57,900	63,660	69,420	82,680
合計	1,372,299	1,460,486	1,416,696	1,315,830	1,261,362	1,193,010	1,131,817	1,056,607	1,050,072	1,052,807	941,638

岐阜県第三セクター鉄道の概要（岐阜県第三セクター鉄道連絡会）より

③バス

郡上市内へ乗り入れをしている路線バスは岐阜バス（高速八幡線・高速八幡名古屋線・八幡美濃線・明宝線・和良線・荘川八幡線）、名鉄バス・JRバス・濃飛バスの名古屋高山線、近鉄バス・濃飛バスの大阪高山線があります。名古屋高山線と大阪高山線の郡上市内の停留所は、郡上八幡ICのみです。

【郡上市内路線バス運行状況（市営の自主運行バス等を除く）】

路線名		運行本数（単位：往復）	
		平日	土・日・祝日
岐阜バス	高速八幡線	12	12
	高速八幡名古屋線	2	2
	八幡美濃線	16（下り18）	12（下り13）
	明宝線	6（上り7）	6
	和良線	6（下り7）	5（下り6）
	荘川八幡線	6	6
その他	名古屋高山線	9（名鉄3、JR3、濃飛3）	9（名鉄3、JR3、濃飛3）
	大阪高山線	2（近鉄1、濃飛1）	2（近鉄1、濃飛1）

市内移動のためのバスとして、八幡地域市街地では巡回するコミュニティバス「まめバス」、その他の地域でも自主運行バス等があるものの、いずれも市民生活の足という目的で路線が設定されており、観光客が利用するには不向きです。また、地域内の移動にとどまっており、例えば「八幡から大和への移動」など、地域を越えた移動手段としては使用できないという現状です。高速バス停から市街地へのアクセスも悪いという現状にあります。

④駐車場

ゴールデンウィーク、シルバーウィークなどには八幡市街地には多くの車が流入しますが、市街地中心部に大きな駐車場がなく、飽和状態となります。徹夜おどりには、八幡小学校と八幡中学校のグラウンドを臨時駐車場としていますが、学校グラウンドはいつも駐車場として使用できるものではなく、使用後は整地をしなければならないという課題もあり、効果的な解決策を講じる必要があります。また、観光客から、郡上市の観光案内サインが分かりにくいとの声もあり、見直しが必要といえます。

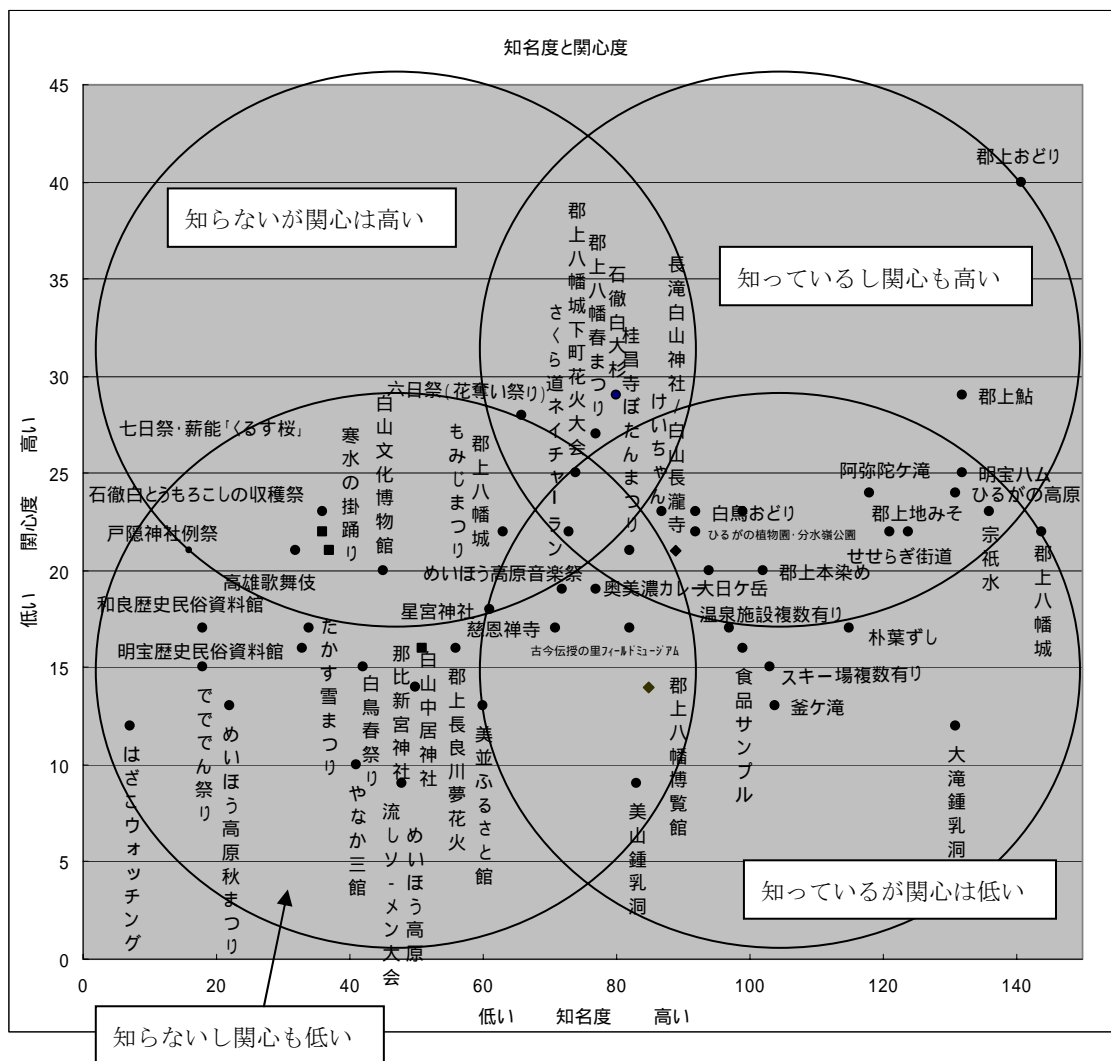
(3) 郡上市の取り組み

①潜在する資源の顕在化とPR

郡上市の観光資源の中で、いちばん知られているものは郡上おどりとスキー場です。またキャンプ場や釣り、ラフティング・カヌーといった川遊びなどのアウトドアレジャーも高い人気があります。これらの資源は、郡上市における有力な観光資源であることは間違いなく、メイン観光資源として強力に施策を進める必要があります。

一方、知名度や関心度が低い資源がまだ数多くあります。その中には、白山信仰ゆかりの歴史や文化、石徹白大杉などの名所・旧跡等メジャーとなるべく候補はたくさんあります。また、新しい試みである「食」の王国づくりも始まったばかりです。さまざまな仕掛けをしながら、年月を経て磨き上げるとともに、PRを強化する必要があります。

【ふるさと郡上会員（市外在住者）に行ったアンケートより、観光資源ごとの知名度と関心度を示すグラフ】



資源の広域的な活用

郡上市の観光は、合併後も従前の地域の枠を超えられず、広域連携ができていない状況にあります。観光資源を、旧町村を超えて、線をつなぎながら面とし、二倍三倍の魅力を生むように変えていかなければなりません。特に着地型観光・長期滞在観光を実現するためには、魅力ある、満足してもらう企画が必要です。そのためには観光資源を広域的に活用する必要があります。

また、詳細な観光情報の提供は、各観光協会等がそれぞれ行っており、窓口が分かりにくい現状にあります。観光客が求める情報を速やかに提供できることは観光のまちでは重要な要素です。情報を一元化できるシステムの構築が求められます。

受け入れ体制の整備

郡上市内には宿泊施設が196軒あります。うち、民宿・ペンションが一番多く152軒、次いでホテル・旅館の23軒、キャンプ場の17軒となっています。

郡上市内宿泊施設数と収容人数

分類	地域	八幡	大和	白鳥	高鷲	美並	明宝	和良	合計
ホテル・旅館		5	3	2	9		3	1	23
民宿・ペンション等		30	2	30	77		13		152
ユースホステル		1							1
公共の宿泊施設		1		2					3
キャンプ場		3	1	4	4	2	1	2	17
施設数計		40	6	38	90	2	17	3	196
収容人数		2,173	243	1,762	5,893	210	543	400	11,224

「岐阜県観光レクリエーション動態調査結果 平成20年」

1日あたりの平均宿泊者数は1,298人（年間宿泊客数473,971人 ÷ 365日）であり、収容人数11,224人の11.6%しかありません。

また、時代がどんどん変化する中、バス・トイレ付きの部屋、露天風呂付きの部屋など、宿泊施設に対する要求も高くなってきており、従来どおりの設備やサービスのままでは観光客の満足が得られにくくなることが考えられます。このため、時代に遅れをとることのないよう必要な投資をして観光客に満足してもらうことが求められます。また、従業員の一人ひとりがおもてなしの精神

を高め、心のこもった接待に努めることが必要です。

近年増加している外国人観光客は、新たな客層であり無限の可能性を秘めています。誘客活動を行うとともに、英語の話せる従業員を確保するなど、受け入れ体制を整えることが大切です。

ブランド化

「郡上市」という地名は岐阜県から一步外へ出るとまだ知られていないようであり、宣伝が不十分であると考えられます。八幡地域が「郡上八幡」というひとつのブランドを創造したように「郡上市」をもっと宣伝して知名度をあげることが必要です。

自然や町全体の景観を美しく保全することも、その町の価値を高める大きな要素です。団体周遊型から個人・グループの滞在型へ、また本物志向へと観光の形態が変わってきているなか、自然や本物の文化に触れ、体験することによって感動のできる観光地が生き残っていくと考えます。幸い郡上市には、自然や文化を相手としたエコロジーな観光資源が多くあり、このエコロジーを壊すことなく観光振興を推進することが、郡上市が「観光のまち」として継続していくといえます。

また、地域の資源を使った地域産業や固有の産業が自律する「独自産業」を持つ、観光のまちづくりが求められます。このことから他の観光地との差別化が図られ、「ここだけ」の魅力が生まれます。

観光を振興するための実行母体づくり

郡上市の観光をこのビジョンを指針として進めるためには、実行母体が必要です。現在、郡上市には観光連盟があり、また各地域では観光協会や郡上八幡産業振興公社や郡上大和総合開発などの第三セクターがあります。今後、このビジョンを実現するための実行母体のあり方、また関係団体との連携について明確にする必要があります。

第3章 基本構想

1. 観光振興の基本理念

「観光」という言葉は、古代中国の書物『易経』の中の「観國之光（國の光を觀る）」が語源といわれています。郡上市には多くの観光資源があります。郡上市が豊かになるためには、郡上市の資源を磨き光らせて観せるこの「観光」が軸になると考えます。ここでいう「豊か」とは、今より少し経済的に豊かになること、社会や文化が豊かになること、かつ継続する豊かさを意味します。

また、エコが叫ばれる現代では、郡上市には、川遊び、山登りなど自然を対象にした遊び、またおどりや城下町などの歴史や文化に親しむなどの「エコな遊び」がたくさんあります。

自然や歴史、文化を大切にしながら、本物に感動できる郡上市としての魅力を高め、郡上市総合計画に掲げている「訪ねたいまち郡上」さらには、今よりも長い時間滞在してもらえるまちづくりを基本理念として掲げます。

訪ねたい、滞在したい郡上づくり



2. 観光振興の基本目標

郡上市観光振興ビジョンでは、計画期間の最終年度である平成27年度時における目標数値を次のとおり掲げるものとします。観光客の入り込み状況が減少している状況であれば大幅な増加を設定するところですが、郡上市の現況は安定していることから現状をベースとし、幅を持たせた目標値を立てるものとします。

平成20年の観光客数は延べ642万人、宿泊客数は延べ47万人であり、この数値をベースとします。この項目において今後5%、10%減少または増加した場合の数値は次の通りです。 (単位：万人)

	10%減少	5%減少	現状	5%増加	10%増加
観光客数	616	629	642	655	668
宿泊客数	42	45	47	49	52

後述の基本計画では、歴史や文化、おどり、ウインタースポーツ、アウトドアスポーツを主な施策として4本柱にあげていますが、この主な施策を推進することで、その項目における観光客数と宿泊客数について5～10%程度の増加を目指すものとします。また、アウトドア系は天候に大きく左右されることから、減少することも考えざるを得ませんが、その率は5%に留めることを基本とします。また、現在のデータがないため目標を数値で表すことはできませんが、さまざまな施策を講じて観光客の満足度を上げることで、リピーターが年々増加することを目指します。

観光客数：640万人 660万人程度

宿泊客数：47万人 52万人程度

(参考) 郡上市における観光消費額の推計

平成19年 155億円 (うち日帰りが109億円、宿泊が46億円)

平成20年 163億円 (うち日帰りが116億円、宿泊が47億円)

平成27年 156億円～177億円

(うち日帰りが111～125億円、宿泊が45～52億円)

郡上市における独自の算出方法による

3. 郡上市の観光の目指す姿

基本理念を基に、郡上市の目指す観光の将来像を、次のとおり掲げます。

四季を通じて、誰もがさまざまなメニューを楽しみ、満足して帰っていただける観光のまちを目指します。

・ 通年観光の実現

郡上市は春は桜、夏は川遊び、秋は紅葉、冬はスキーといった多様な資源で楽しめるまちです。企画や宣伝を加えることで、幅広い年齢層に四季通じて楽しんでもらえる観光のまちを目指します。

・ 資源の総活用

郡上市には多様な資源があります。観る、食べる、体験する、学ぶことをいろいろなメニューで楽しめる観光のまちを目指します。

・ 本物に感動いただけるまちづくり

「旬のもの」を、また「本物」を提供し、歴史や自然、体験などを通じて感動してもらえる観光のまちを目指します。

・ 着地型観光と体験メニューの充実

魅力ある着地型観光や体験メニューの企画・充実を図り、観光客が体験や学びのなかで市民とのつながりを深め、何度でも訪れたい、訪れやすい観光のまちを目指します。

・ 外国人観光客にやさしいまちづくり

外国語の案内板や施設内の表記など、外国人にやさしい観光のまちを目指します。

市民・事業者・行政が参加・連携して、心からのおもてなしを提供する観光のまちを目指します。

・ みんなが力を合わせる

郡上市に住む人たちが力を合わせ、 $1 + 1 = 2 +$ になるような観光のまちを目指します。

・ 郡上ならではのサービスの提供

「郡上ならではの」の心のこもった、観光客の心が温まるサービスを提供する質の高い観光のまちを目指します。

・ 市民自らが誇りに思うまちづくり

先人から受け継いだ観光資源に恵まれた郡上市。このまちを市民自らが誇りに思うとともに、次世代へ継承する観光のまちを目指します。

第4章 基本計画

1. 概要

郡上市の観光を振興するための具体的な取り組みを、次のとおり掲げます。この観光振興ビジョンは平成22年度から27年度までの6年間の計画です。この短期間に特に強力で推進したい事項を主な施策として4つ掲げ、さらには地域の付加価値を向上させるために取り組むさまざまな施策を掲げます。

主な施策

歴史と文化にふれるまち郡上

- ・白山文化
- ・城下町
- ・暮らし
- ・古今伝授
- ・高賀山と円空

日本一のおどりのまち郡上

- ・郡上おどりと白鳥おどり

ウインターリゾート郡上

- ・スキー&スノーボード

アウトドアリゾート郡上

(グリーンツーリズムの推進)

- ・フィッシング
- ・ウォーキング&トレッキング
- ・自然体験
- ・ラフティング&カヌー
- ・キャンプ

地域の付加価値を向上するために取り組む施策

(1) 自然と水

豊富な自然を大いに活用

きれいな水と戯れることのできるまち

(2) 「旬のもの」の提供と「食」のブランド化、温泉

花と紅葉

イベント

「食」のブランド化

温泉めぐり

(3) 産業、スポーツ、音楽を通じた観光

産業観光の開発

スポーツ合宿村

音楽を通じた郡上市のPR

(4) 着地型観光の推進と交流、おもてなし

着地型観光の推進

知り合いの居る観光地づくり

「おもてなしの心」の醸成

(5) 受け入れインフラ整備

市街地の交通対策

人にやさしい案内表示

施設の一流化

東海北陸自動車道の活用

公共交通機関の利便性向上

防犯体制等の徹底

次のページからは、各取り組みの概要やすすめ方などについて述べます。

2. 主な施策

(1) 歴史と文化にふれるまち郡上

郡上市は以下に述べるように、全国的にもたいへん個性的で魅力ある歴史と文化を育んだ町です。この特色ある歴史・文化を大きな観光資源として位置づけ、新しい観光のあり方を研究しながら生かしていきます。

また、市内の各地域には、地域の歴史や文化を展示・紹介する博物館や資料館が各地域のシンボリック施設として整備されており、これらの施設との連携も行いながら、旅行企画を新規開発するなど、さまざまな取り組みを行います。

白山文化

白山は富士山、立山と並んで日本三霊山のひとつに数えられます。一帯は国立公園に指定されています。白山は717年に泰澄大師が開山したと伝え、修行、信仰の山として鎌倉時代から室町時代に隆盛を極めました。郡上市北部には長瀧寺、長瀧白山



長瀧白山神社

神社、阿弥陀ヶ滝、白山中居神社、石徹白大杉など白山信仰ゆかりの史跡や伝承地があり、また社寺には仏像・仏画などをはじめとする数多くの文化財が収蔵され、県下でも特筆すべき地域となっています。白山三馬場の一つであった美濃馬場長瀧地域一帯は、白山文化博物館・道の駅白鳥を拠点とした『白山文化の里』づくりが進められてきましたが、現在はその機能が十分に発揮されていない状況となっています。

今後は、観光客の受入れを円滑にするための体制づくりを進めるとともに、阿弥陀ヶ滝から石徹白地域への観光客の誘導を図るため、白山文化博物館・道の駅を拠点として商品開発に取り組んでいきます。また、HPやマスメ



霊峰 白山

ディアを活用し広く情報発信していきます。さらには、美濃馬場の研究などを行う会やグループ等の育成、白山三馬場のネットワークづくりも含めた石川県・福井県、白山山麓地域との連携による広域観光の推進に取り組んでいきます。

このエリアには、第三セクターの長良川鉄道「白山長滝駅」があり、資源を生かして利用者の増加を図ります。

道の駅を含めた振興開発組織の見直しと商品開発
白山三馬場のネットワークづくり
環白山広域観光推進協議会による広域事業展開
地元案内人による周辺の観光商品化

古今伝授

13～16世紀にかけて勢力をはった東氏は和歌の名門であり、特に第九代・東常縁は、連歌師宗祇に古今和歌集の奥義を授けて「古今伝授の祖」といわれました。このことから大和地域は「古今伝授の里」と銘打って観光振興をはじめ、全国に例をみない「和歌の里」としての地域づくりがなされてきました。



古今伝授の里フィールドミュージアム

古今伝授の里フィールドミュージアムは、東氏の拠点であった篠脇城の周辺に点在する多くの遺跡と、域内の植生や景観を取り込んだ野外博物館で、そのエリアは東西約2 kmに及びます。ここには東氏記念館や和歌文学館などが整備され、薪能をはじめとした質の高い様々なイベントも継続的になされていることから、学習型リゾート又は知的観光地という新しいコンセプトを持つ郡上市の有力な観光スポットです。

まだ、知名度も集客力も低いことから、全国に向けてのPR活動とともに、ボタンや彼岸花などの「花」をキーワードにした一般客に馴染みやすい活動にも力をいれます。

宣伝、誘客活動の強化
花などをテーマとした新しい展開や企画開発

城下町

八幡地域市街地は、近世に遠藤氏が郡上八幡城を築いて以来、城下町として発展し、今日を迎えています。現在では、郡上八幡城や神社・仏閣、古い町並み、宗祇水、清流などの施設や景観に囲まれた中で、郡上おどりや水のまちとして年間約140万人が訪れています。

この八幡地域市街地において近年行った調査では、1,237軒の町家等



郡上八幡城

の歴史的建造物が確認されています。この町家群は、城下町の風情を色濃くかもし出しているといえます。すでに「町家千軒」としてこの町家を守り活用しようとする活動が立ち上がっています（平成21年 町家千軒フォーラム開催）。また、多くの神社仏閣もあります。昨年の秋には観光協会が宿泊客の増加を図るため3つのお寺をライトアップしました。この「町家千軒」の保存と活用、また神社仏閣をより生かす企画開発や電柱地中化など景観向上についての検討などを行い、城下町としての魅力アップを進めます。

一方、観光客の散策は市街地北部が中心となっている現状があり、今後は南部への流れを開発する必要があります。南部においても神社仏閣があり、また町家は北部よりも多く残っています。サンプル体験施設、やなか三館など既存民間観光施設も多くあり、これに加えて町家を活用したギャラリーや展示施設などを増やし、南部の散策コース（仮称）「散策する回廊 文化の道」の確立を目指します。

城下町は着物の似合う町。着物を着て来町すれば観光施設の入館料割引を行うなど、郡上おどりの浴衣に加えて着物文化を奨励します。

郡上八幡産業振興公社、郡上八幡観光協会、市街地まちづくり協議会等による事業推進

高賀山と円空

瓢ヶ岳に住む鬼を藤原高光が退治したという伝説が残っているこの地域では、虚空蔵信仰を中心とした山岳信仰が中世に全盛期を迎えました。高賀山麓には、新宮、本宮、星宮、高賀、瀧、金峰の6つの社寺があり、尾根伝いに1日で6社寺をまわる「六社めぐり」があります。これに白谷・観音堂を加えて「六社一観音めぐり」という訪ね方もあります。このうち3社（新宮、本宮、星宮）は郡上市内にあり、高光が鬼を退治したときの矢を納めたといわれる矢納ヶ淵や社宝（仏像・経典等）がたくさんあります。星宮神社の横には円空仏90体を展示した円空ふるさと館があります。このエリアには、粥川の森、粥川バンガロー村、瓢ヶ岳への遊歩道などもあり、エリア一帯を

高賀山と円空をベースにして振興します。

地域づくり団体等による振興開発組織の設立と商品開発

暮らし

郡上市の歴史や文化にふれる中で忘れてはならないのが、市内には大小無数の洞の集落があり、そこに先人たちの血と汗と涙によって築かれた歴史や文化があることです。現代は日々変化し、スピード化の時代といわれていますが、明宝歴史民俗資料館では、国の重要有形民俗文化財に指定される「山村生産用具」「人生儀礼用具」3,500余点をはじめ、時間がゆっくり流れていた時代の民俗資料45,000点以上を収蔵しています。また、和良歴史資料館では民俗資料のほかに天然記念物のオオサンショウウオの飼育も



明宝歴史民俗資料館

式を再現して展示しています。このような資料館を拠点として、グリーンツーリズムなども通じて、郡上に残されている山間地域の生活様式、祭りやしきたりを後世へ守り伝えていくとともに、観光資源として磨きます。

地元住民が実施する山村生活体験等を通じた都市との交流

(2) 日本一のおどりのまち郡上

郡上市には、「郡上おどり」と「白鳥おどり」という全国でも類をみないロングランで行う盆踊りがあります。盆踊りをいつまでも伝承していくとともに、更に磨きをかけて、郡上市の宝とします。

郡上おどりと白鳥おどり

国指定無形民俗文化財で古い歴史を持つ八幡地域における郡上おどりは、毎年32夜、また拝殿踊りが国選択無形民俗文化財となり古い形を残す白鳥地域の白鳥おどりは毎年20夜開催されています。お盆には、郡上おどりは4夜、白鳥おどりは3夜にわたり徹夜おどりが行われます。この2つのおどりを伝える郡上市は日本一のおどりのまちです。「郡上といえばおどり」「おどりといえば郡上」を定着させるため、キャンペーンなど宣伝活動を行います。

郡上おどり保存会、白鳥おどり保存会の後継者育成については、ジュニアクラブやおはやしクラブの組織の強化などを念頭に置きながら、地域全体で真剣に考え取り組んでいきます。また、ジュニアクラブに限らず、子どもたちに郡上人としての素地を育成することは大切なことであり、教育委員会と連携し、郡上学として郡上おどりと白鳥おどりが身近なものになるよう働きかけを行います。

目標（郡上おどり）

保存会員 約65名（現在） 約80名（平成27年度）

ジュニア 約15名（現在） 約20名（平成27年度）

目標（白鳥おどり）

保存会員 約50名（現在） 約65名（平成27年度）

ジュニアについては、白鳥小学校のクラブ活動のみならず、中学校まで範囲を広げて活動できることを目指します。

観光資源としてのおどりを通じて、まち全体に対し「観光のまち」意識と「文化財の保存継承」意識向上に努めます。

郡上おどりと白鳥おどりの

交流事業の実施

キャンペーンの実施

運営組織の見直し

おどり会館建設のための研究



白鳥おどり（拝殿おどり）

（3）ウインターリゾート郡上

スキー&スノーボード

郡上市には12のスキー場があります。東海北陸自動車道の整備によりアクセスも非常に良く、スノーボードワールドカップを2度開催するなど、今や日本トップクラスのウインターリゾートといえます。しかし、ブランド確立のための取り組みは、それぞれのスキー場が個別に行っており、「ウインターリゾート郡上」としての統一感のあるPR戦略はあまり行われてきませんでした。今後は、スキー場と宿泊施設、更には温泉施設が連携しながら「郡上」としてのブランドの確立を進めることで、宿泊、連泊、長期滞在者

の増加を図ります。また、セントレア（中部国際空港）から近いという利点を生かして、外国人の誘客にも取り組むほか、郡上出身者もしくは郡上をホームとしている選手の支援や育成強化を行います。

また、アクセス道路の確保は最も重要なことであり、関係機関と連携して万全な除雪体制を確立します。

【郡上市内のスキー場】

アウトドアイン母袋(大和)	いとしろシャーロットタウン(白鳥)
ウイングヒルズ白鳥リゾート(白鳥)	しらおスキー場(白鳥)
スノーウエーブパーク白鳥高原(白鳥)	郡上高原スキー場(高鷲)
高鷲スノーパーク(高鷲)	ダイナランド(高鷲)
ひるがの高原スキー場(高鷲)	ホワイトピアたかす(高鷲)
鷲ヶ岳スキー場(高鷲)	めいほうスキー場(明宝)



市内のスキー場

「ウインターリゾート郡上」としての統一的品牌確立のための取り組み
 南部と北部のハイシーズンの違いを相互活用したローシーズンの宿泊者の確保
 郡上出身者もしくは郡上をホームとしている選手の支援・育成強化
 関係機関と連携した除雪の万全化

(4) アウトドアリゾート郡上

郡上市は自然あふれる町です。山や川などの恵みを生かした自然体験、また歴史や文化にふれたり住んでいる人々との交流を楽しむグリーンツーリズムは近年の観光において重要なポイントであり、郡上市の得意とする分野になっていくといえます。このグリーンツーリズムを柱として、滞在しながらさまざまなアウトドアを楽しむことのできる観光地を目指します。

フィッシング

長良川水系で漁獲される「郡上鮎」は、河川産天然鮎としてはもちろんのこと、河川産魚類としても全国で初めての地域団体商標として特許庁に登録されました。また、全国の各河川から寄せられた天然鮎の味を競う「清流めぐり利き鮎会」では、平成20年度にグランプリを受賞しています。和良川

産の鮎も平成19、21年度にグランプリを受賞しています。毎年6月には、鮎釣り大会の全国大会も郡上市で開催されています。長良川、和良川、石徹白川、吉田川など24の1級河川を持つ郡上市では、この日本一の鮎をはじめ、アマゴや岩魚など、川釣りを存分に楽しむことができるということを、大いにPRしていきます。

漁協と連携した「釣りのまち」としてのPRの実施

ウォーキング&トレッキング

郡上市の9割以上は森林であり、自然の恵みを体感できる資源が多くあります。歴史や伝承地に包まれた白山、高賀山などへの山登り、また最近では、ウォーキングやトレッキングも人気があり、愛好者も増えつつあります。この登山やウォーキング、トレッキングについて、コースの紹介、また案内ガイドの育成などを行います。

大日岳登山



- ・ウォーキング＝歩くこと。
 - ・登山＝山頂を目指して山を登ること。
 - ・軽登山＝常時、ピッケルやアイゼン、ザイル等を使用しないで登る登山
 - ・トレッキング＝山頂は目指さないが山の中を歩くこと
- 郡上市全体のコースやエリア案内書の作成
自然案内ガイドの育成と組織化

自然体験

郡上市内には、自然体験プログラムを実施しているNPO法人等が多くあります。これらの団体等が結集、連携して都会の子どもたちに田舎体験プログラムを提供している「田舎の学校」という組織もあります。体験内容は、野菜の収穫や牛の乳しぼり、田んぼでのどろ遊びなど多彩です。雪かきや屋根の雪下ろしなども都会では味わえない体験です。このように都会の子どもたちに郡上ならではの自然体験を楽しんでもらうことは、将来の郡上市への大いなる継続力を養うものと考えます。また、都会の子どもだけでなく、地元の子どもたちが体験することも大切であり、教育委員会と連携を図って働きかけを行います。

さまざまな自然体験プログラムを提供するまちであることをPRするとと

もに、自然体験活動団体・組織を支援します。

行政や各種団体と自然体験を行うNPO等との連携

ラフティング&カヌー

近年、美並地域の長良川を中心として、ラフティングやカヌーが人気です。長良川ラフティング連絡会には14の業者が加盟しています。一方、行政や地元とのつながりは充分ではなく、釣り人や地元住民等との問題も発生しているという現状にあります。今後、ラフティング業者と行政、漁業組合、住民等が協議を行い調整していくことが必要と考えます。

関係者による協議・調整の推進

キャンプ

郡上市には多くのキャンプ場があります。ファミリー向け、教育団体向け、ライダー向け、ペット同伴などその受け入れスタイルも多様です。また、コテージを擁したキャンプ場もあり、ウインターシーズンもスキーやスノーボードを楽しむ拠点としての利用が可能です。豊富な自然を活用したキャンプを楽しめる最適地であり、総合的なPRを支援します。

【郡上市内のキャンプ場】

郡上八幡自然園(八幡町)	郡上八幡せせらぎリバーウッドオートキャンプ場(八幡町)
郡上八幡レイク・オートキャンプ場(八幡町)	アウトドアイン母袋キャンプ場(大和町)
N.A.O明野高原キャンプ場(高鷲町)	ロックフィールドいとしろオートキャンプ場(白鳥町)
ひるがの高原キャンプ場(高鷲町)	N.A.O奥長良キャンプ場(高鷲町)
ふくべの里 粥川バンガロー村(美並町)	フォレストパーク373(美並町)
和良大月の森公園(和良町)	大谷森林キャンプ場(明宝)
ウイングヒルズ白鳥リゾート天然温泉付キャンプ場(白鳥町)	和良川公園オートキャンプ場(和良町)
鷲ヶ岳立石キャンプ場(高鷲町)	油坂さくらパーク(白鳥町)
めいほうベルグコテージ(明宝)	小川きのり(明宝)
こうじびら山の家(明宝)	レンタルコテージ「ストロブンプンハウス」(明宝)

総合紹介パンフレットの作成

情報交換会の開催

この主な施策については、平成22年度に写真入りのポスターを新たに作成してPRすることを計画しています。

3. 地域の付加価値を向上するために取り組む施策

(1) 自然と水

豊富な自然を大いに活用

郡上市は、山、森、川、滝、鍾乳洞、高原など多彩な自然に恵まれています。また、旅行者の多くは自然に触れることを目的としています。豊かな自然をPRして、見て感動、歩いて健康の観光地づくりを行います。ただし、決して安売りはせず、本物の価値を維持するものとします。加えて、郡上市は平成22年度から「景観行政団体」となる予定であり、景観の保全についても配慮しながら観光振興を行います。

郡上九景を選定し、自然あふれる郡上市をアピールします。併せて郡上九名山、郡上九名木を選定し、山国の魅力をアピールします。



ひるがの高原

星空がきれいに見えるポイントを整理し、新たな資源とします。

また、和良地域などには、昔からの素朴な田園風景が残されている箇所がまだまだあります。写真コンテストなどを行って、ビューポイントを選定しPRすることで、新たな観光ポイントとします。

きれいな水と戯れることのできるまち

長良川をはじめとする清流と市内のあちこちから清水が湧き出る郡上市は、まさしく水の町です。水は全ての命を育みます。郡上市にはこの水で育ったおいしい作物、この水を使ったおいしい料理がたくさんあります。また、夏になるとさまざまな川遊びも楽しめます。鮎をはじめ釣りが楽しめる町、子どもや親子で川遊びができる町、近年人気のラフティングやカヌーができる町など、川遊びのマナー向上も啓発しながら、きれいな水と川遊びが存分に楽しめる町であることをPRします。



吉田川の川遊び

(2)「旬のもの」の提供と「食」のブランド化、温泉

花と紅葉

郡上市には、桜、ミズバショウ、ボタン、ユリなどの花、また紅葉の見所がたくさんあります。見所について花カレンダーを作成するなど、年間を通じて、市内のどこかで花や紅葉などが見られる町としてPRを行います。

【郡上市における花と紅葉の見ごろ・見どころ】

(1月)	【寒ボタン】	桂昌寺のぼたん園(美並町)
(2月中旬～4月中旬)	【山野草】	古今伝授の里フィールドミュージアム(大和町)
(4月上旬)	【桜】	国道156号線沿い深戸の桜並木(美並町)
(4月上旬)	【桜】	下田の桜並木(美並町)
(4月上旬)	【桜】	愛宕公園(八幡町) 墨染めの桜
(4月上旬)	【桜】	五町堤(八幡町)
(4月上旬～中旬)	【桜】	栗巣川の桜並木(大和町)
(4月上旬～中旬)	【桜】	奥長良の桜並木(大和町)
(4月上旬～中旬)	【桜】	明建神社参道の桜並木(大和町)
(4月中旬～5月中旬)	【芝桜】	国田家の芝桜(明宝)
(4月中旬)	【桜】	善兵衛桜(明宝)
(4月中旬)	【桜】	方須の桜並木(和良町)
(4月下旬)	【桜】	藤路の桜(白鳥町)
(4月下旬)	【桜】	善勝寺(白鳥町)
(4月下旬～5月上旬)	【ミズバショウ】	ひるがの高原(高鷲町)
(4月下旬～5月上旬)	【ヤマブキ】	長滝白山神社(白鳥町)
(5月上旬～5月中旬)	【ボタン】	古今伝授の里フィールドミュージアム(大和町)
(5月上旬)	【ボタン】	桂昌寺のぼたん園(美並町)
(6月)	【あじさい】	桂昌寺(美並町)
(6月下旬～7月中旬)	【ラベンダー】	牧歌の里(高鷲町)
(5月上旬～中旬)	【チューリップ】	牧歌の里(高鷲町)
(7月上旬～8月下旬)	【ユリ】	ダイナランドゆり園(高鷲町)
(7月中旬～8月下旬)	【コキア(緑)】	ひるがの高原スキー場(高鷲町)
(8月下旬～10月中旬)	【サルビア】	牧歌の里(高鷲町)
(8月下旬～9月下旬)	【コスモス】	牧歌の里(高鷲町)

第4章 基本計画

(9月中旬)	【彼岸花】	古今伝授の里フィールドミュージアム 及び明建神社参道(大和町)
(9月中旬～10月下旬)	【コキア(紅葉)】	ひるがの高原スキー場(高鷲町)
(10月下旬)	【紅葉】	桧峠・阿弥陀ヶ滝(白鳥町)
(10月下旬～11月中旬)	【紅葉】	奥山林道(和良町)
(10月下旬～11月中旬)	【紅葉】	古今伝授の里フィールドミュージアム(大和町)
(10月中旬～11月下旬)	【紅葉】	せせらぎ街道(明宝)
(11月上旬～中旬)	【紅葉】	郡上八幡城・慈恩禅寺・大乘寺他(八幡町)
(12月～1月)	【南天】	安久田地区・那比地区(八幡町)

この表は、全ての見どころを掲載しているものではありません。

イベント

イベントは、天候のリスクが大きいものの、郡上市のPR効果、経済効果、地域の活性化には大きな役割を果たします。郡上市では、年間を通じて、市内のどこかで祭り、イベント（施設における特別展含む）を行っています。市内外の多くの人に訪れてもらうため、ホームページで旬な情報発信を行うなど、周知・PRを行います。

【郡上市イベント一覧】

4月	3、4日	母袋のひな祭り(大和町)
	上旬	郡上八幡城の日(八幡町)
	3月中旬～4月上旬	ひなあそび、布あそび(大和町)
	中旬	郡上八幡春まつり(八幡町)
	下旬	さくら道国際ネイチャーラン(白鳥町)
	下旬	明宝溪流釣り大会(明宝)
	下旬	ゆきばた椿まつり(大和町)
5月	上旬	桂昌寺 牡丹まつり(美並町)
	初旬～中旬	フィールドミュージアムぼたんまつり(大和町)
	上旬	白鳥春まつり(白鳥町)
	上旬	城下町プラザフェス(八幡町)
	5日	でででん祭り(白鳥町)
	上旬	磨墨春まつり(明宝)
	上旬	道の駅 春のイベントまつり(美並町)
	上旬	明宝観光協会長杯争奪溪流釣り大会(明宝)
	第3日曜日	白山中居神社 春季例大祭(白鳥町)
	下旬	ポッカテニストーナメント(高鷲町)
6月	第1土・日曜日	石徹白Fisher's Holiday(白鳥町)
	下旬	白尾清掃トレッキング(白鳥町)
	中旬～7月中旬	あじさいまつり(美並町)
	下旬	JFT鮎トーナメント(大和町)
	役者のスケジュール によって決定	人形浄瑠璃「文楽」大和公演(大和町)

第4章 基本計画

7月	上旬～8月下旬	郡上八幡七夕まつり、ゆかたフェスタ(八幡町)
	上旬	郡上おどり開幕(八幡町)
	中旬	中居神社創業祭(白鳥町)
	中旬	白山道清掃ボランティア登山(白鳥町)
	中旬	白鳥おどり開幕(白鳥町)
	下旬	白山の火 御燈移し登山(大和町)
	下旬	しろとり食まつり開幕(白鳥町)
	下旬	めいほう高原音楽祭(明宝)
	下旬	子どもおどりの夕べ(八幡町)
	下旬	ベジタブル収穫祭(白鳥町)
	下旬	連句フェスタ宗祇水(八幡町)
	8月	初旬
6日		妙見法楽連歌大会(大和町)
7日		七日祭り(大和町)
7日		新能「くるす桜」(大和町)
上旬		郡上八幡城下町花火大会(八幡町)
上旬		はざこウオッチング(和良町)
上旬		農家市場(トマト祭り)(白鳥町)
10日		郡上おどり個人おどりコンクール(八幡町)
13～15日		白鳥おどり徹夜おどり(白鳥町)
13～16日		郡上おどり徹夜おどり(八幡町)
14日		郡上長良川夢花火(大和町)
15日		ふるさと牛道夏まつり(白鳥町)
14～15日		ふるさとサマーフェスタ(和良町)
19日		郡上おどり団体おどりコンクール(八幡町)
下旬		円空のふるさと 夏まつり(美並町)
下旬		郡上八幡文芸祭(八幡町)
下旬		とうもろこしの収穫祭(白鳥町)
下旬		めいほう高原パノラマ流しそうめん大会(明宝)
下旬		白鳥おどり閉幕
下旬		郡上おどり変装コンクール(八幡町)
9月	上旬	寒水の掛踊(明宝)
	上旬	ひるがの高原テニスフェア(高鷲町)
	上旬	郡上おどり閉幕(八幡町)
	中旬	昔おどりの夕べ(八幡町)
	下旬	白鳥変装おどりコンクール(白鳥町)
10月	上旬	歌となる言葉とかたち展 inYAMATO(大和町)
	上旬	高雄歌舞伎(八幡町)
	中旬	戸隠神社祭礼(和良町)
	中旬	郡上八幡芸能祭(文化祭)(八幡町)
	中旬	ふるさとしろとり夢まつり(白鳥町)
	中旬	フォレストパーク祭り(美並町)
	下旬	めいほう高原秋まつり(明宝)
	下旬	やまとふれあい祭り(大和町)
	下旬	郡上八幡ふるさとまつり(八幡町)

10月	下旬	たかすふるさと祭り(高鷲町)
11月	上旬	道の駅美並感謝祭(美並町)
	3日	道の駅 古今伝授の里やまと おおきに祭(大和町)
	中旬	里子の祭り(和良町)
	中旬	郡上八幡城もみじまつり(八幡町)
	中旬～下旬	古今伝授の里やまと どぶろくまつり(大和町)
	下旬	つけもの市(白鳥町)
12月	中旬	郡上八幡ふるさと南天まつり(八幡町)
1月	1日	ニューイヤーズマラソン(和良町)
	6日	六日祭(花奪い祭り)(白鳥町)
	20日、2月上旬	郡上本染め鯉のぼり寒ざらし(八幡町)
2月	中旬～4月上旬	城下町郡上八幡お雛まつり(八幡町)
	中旬	たかす雪まつり(高鷲町)
3月	上旬	千虎甘酒まつり(八幡町)
	上旬	かんじきトレッキング in しらお(白鳥町)
	中旬	あまご釣り大会(和良町)

この表は平成21年度のイベントをベースにしています。また、全てのイベントを掲載しているものではありません。

「食」のブランド化

ア．日本一の「郡上鮎」、今話題の「奥美濃カレー」、古くから食されてきた「鶏ちゃん」のブランド化



生産、普及、宣伝などを行う母体が確立されている「郡上鮎」、「奥美濃カレー」、「鶏ちゃん」をさらに広げるには、ブランド化を図るためのプロモーションが必要となります。その際に研究しなければならないのは付加価値であり、この研究を深めながら運営母体を中心とした活動を積極的に支援します。

イ．食のイベントを通じた「観光」「食」のプロモーション

食のイベントを通じて「食の王国づくり郡上」を推進します。「郡上といえば、この味」と観光客に認知されるためのイベントを実施します。また、一過性のイベントではなくイベントがきっかけとなり、豊富な観光資源と食を盛り込んだ周遊観光ができるよう提案します。

ウ．食の新商品開発と普及活動（キジ料理研究開発）

郡上地域活性化協議会ではキジ料理の研究開発を行ってきました。商品化の目途は立ったものの推進母体がないため、当面は郡上調理師会が事業展開するよう協議を進めます。また、キジの仕入値が高価であるため、「ア」で掲げた食材同様、付加価値の研究が必要となります。まずは市民に認め

られる取り組みを実施します。

エ．郡上ならではの食材・食の提供

道の駅などに併設する農産物直売所では、郡上ならではの新鮮で安心・安全な食材を提供しており、これも重要な観光資源です。積極的なPR活動を行ってリピーターの確保に努めるとともに、市内の宿泊施設や飲食店と生産農家が連携を図ることで、地産地消を推進します。

農産物や林産物の地域特産品をはじめ山菜や川魚、しし鍋などジビエ（ ）を食材としたメニューの商品化を推奨していきます。また、郡上は山菜の宝庫です。山菜採りツアー、山菜を使った料理体験、白山山麓で古くから用いられてきた薬草を活用した薬膳料理の商品化の実現など、医食同源（ ）の考え方で、メニューの研究・開発に努めます。

「ジビエ」とは、狩猟によって食材として捕獲された野生の鳥獣のことを指します。

「医食同源」とは、病気を治療するのも日常の食事をするのも、ともに生命を養い健康を保つために欠くことができないもので、源は同じだという考え。

温泉めぐり

市内には13の温泉（内1つは温泉スタンド）があります。それぞれ特色がありますが、その多くは日帰り温泉施設という弱みがあります。「郡上の温泉」として、温泉施設が連携し、各温泉をめぐるツアーやスタンプラリーなどの商品間初開発をするため、調査・研究に努めます。

【郡上市内の温泉】

郡上温泉「宝泉」(八幡町)	高畑温泉 湯之本館(八幡町)
母袋温泉(大和町)	やまと温泉「やすらぎ館」(大和町)
美人の湯しるとり(白鳥町)	天然温泉「満天の湯」(白鳥町)
ふたこえ温泉(高鷲町)	牧歌の里温泉「牧華」(高鷲町)
湯の平温泉(高鷲町)	天然鷲ヶ岳温泉(高鷲町)
日本まん真ん中温泉「子宝の湯」(美並町)	明宝温泉「湯星館」(明宝)
日本一長寿の湯(温泉スタンド)(和良町)	

(3) 産業、スポーツ、音楽を通じた観光

産業観光の開発

食品サンプルはもともとは観光資源ではありませんでしたが、現在は郡上

市での有名な観光資源となっており、多くの観光客が訪れ、買い物やサンプル作りの体験を楽しんでいます。

酒蔵見学や郡上本染めの鯉のぼり寒ざらしなども、産業が観光につながった例といえます。また、近年新しく産業観光として生まれたものに恐竜ロボットがあります。元々は歯科技工の技術から産まれた恐竜ロボットは、まるで太古の世界から甦ったようなリアルさと迫力ある動きで、子どもたちの人気を集めています。



食品サンプル体験

このように、製造業での技術や作業など、本来は観光資源ではない分野でも、人が集まる観光資源として光らせることに取り組みます。

スポーツ合宿村

高鷲地域では、冬場は修学旅行やスキー研修などの団体の宿泊がありますが、夏場は団体の宿泊が少ない現状にあります。一方、この地域は、標高が高く夏場の気候が良いことから、夏場でスポーツ等の合宿には適した地域であるといえます。すでに誘致が進んでいるテニス、また近年利用が増えているサッカーに加えて、ラグビーなどの合宿も受け入れ体制整備を進めて誘致活動を行い、宿泊者の増加を目指します。

音楽を通じた郡上市のPR

毎年、めいほう高原では、有名なミュージシャンを迎えて「めいほう高原音楽祭」が開催されています。さらに、近年はレゲエフェスティバルも催されています。



また、地元には音楽愛好者の会や演奏グループもあり音楽活動を行っています。このように音楽を通じて若者が集い交流することを支援するとともに、郡上市PRの媒体として活用します。

めいほう高原音楽祭

(4) 着地型観光の推進と交流、おもてなし

着地型観光の推進

着地型とは、旅行商品の企画・造成を、都市部の旅行会社が行う「発地型」に対し、旅行目的地側で行うことを指します。これまでは旅行者のニーズを把握し情報を発信するのに便利な発地型が大半でしたが、消費者志向の多様化に伴い、地元の人しか知らないような穴場や楽しみ方が求められるようになり、地域おこしにもつながるとして着地型が見直されています。市内でも新しい観光素材を掘り起こし、都市部の旅行会社に提案する着地型が今後力を入れるべき活動と考えています。

メニュー内容としては、すでに実施されているグリーンツーリズムと、観光施設の見学、スポーツなどを一体的に組み合わせて商品開発を行います。加えて、みかん狩りやぶどう狩り感覚で、果実を野菜に代えて、芋ほり、だいこん抜き、とうもろこし取りなど、郡上ならではの(仮称)「野菜狩り」を新たな観光資源として研究します。

すでに郡上地域活性化協議会ではモニタリングツアーを通じて郡上の豊かな自然、歴史や文化、生活様式について高い評価を得ています。しかし、助成事業に頼らない真の自立を図るために市内旅行会社、観光協会が中心となった民間事業者による、地域観光資源の発掘や旅行商品の企画・販売・情報発信のシステム構築を支援します。

知り合いの居る観光地づくり

旅館のおかみ、観光案内人、体験教室など、観光客と触れ合う機会でも、市民が積極的に交流を深めて観光客と知り合いになることにより、リピーターの増加を図ります。また、リピーターのクラブ的組織をつくり、そこへ向けての情報発信も行います。

また、このリピーターは将来的に郡上市へ移住してもらえる可能性を秘めています。郡上市交流移住推進協議会を中心として、郡上市民との交流を通じて郡上市への移住を推進します。

「おもてなしの心」の醸成

観光客の旅行形態が団体周遊型から個人・グループの滞在型へと変化している中で、観光客と地域住民との交流する機会が増えています。また、高齢者や障がい者、外国人など、誰もが安心して快適に観光できる環境づくりが

求められています。

そのため、すべての観光客を郡上市全体であたたかく迎えるために、市民、観光事業者、観光関係団体といった観光振興の担い手がおもてなし向上の取り組みを進めることとし、ホスピタリティあふれる観光地づくりを目指します。

また、ホスピタリティを醸成させるためには地域を知り地域を語れること、地域の誇りを持つことが必要です。そのために、市民を対象とした観光塾の開催や、資質向上のためのホスピタリティ研修会等人材育成の取り組みを行います。

(5) 受け入れインフラ整備

市街地の交通対策

市内での観光の移動手段は、圧倒的に自家用車が主流です。受け入れる側としては十分な駐車場を確保していることが必要ですが、特に八幡地域では、徹夜おどりの時こそ小学校や中学校のグラウンドを有料の臨時駐車場として使用するものの、ゴールデンウィークやシルバーウィーク、おどり発祥祭やおどり納め等には駐車場が飽和状態です。グラウンド使用については使用後に整地をしなければならないという課題もあることから、グラウンド以外の臨時駐車場の確保、さらには、新たな常設駐車場の確保に向けて調査を行います。新規駐車場については、市街地の外側に設置し、パークアンドライド方式()を取り入れることを基本として調査します。

「パークアンドライド方式」とは、自宅から、公共交通機関に乘降できる駅やバス停に設けられた駐車場まで車で行って駐車し、そこで公共交通機関に乗り換えて目的地へ向かう方式。市街地における駐車場不足と渋滞に対して効果があります。

八幡市街地道路では幅が狭く、車道と歩道の区別のないところが多いため、行楽期には観光客と車で混雑しています。少しでもこの混雑を減らして安全を確保するため、一方通行化や時間帯による車両の乗り入れ制限を行うエリア設定(脱車エリア)等について研究します。

人にやさしい案内表示

観光施設が集中している八幡市街地で、歩行者が確実に目的地にたどり着けるよう案内表示を見直します。特に周辺駐車場の利用者及び公共交通機関

利用者に対してやさしい案内となるよう整備を行います。外国人観光客にも対応できるよう、外国語表記も行います。

施設の一流化

観光客に気持ちよく楽しんでいただけるよう、観光施設の適切な管理・運営・整備を行います。特に時代はバリアフリーであることにかんがみ、高齢者や障がい者に優しい施設整備を進めます。

年々増加の傾向にある外国人観光客の受け入れ体制についても整備を進めます。市では、すでに外国語のパンフレットやDVDを作成していますが、今後、街角の案内サインや施設内の展示説明等の外国語表記も進めます。また、今年度、「国際観光ホテル整備法に基づく郡上市固定資産税の特例に関する条例」を制定しました。この条例は、市内のホテル・旅館が国際観光ホテル・旅館に登録するために条件に合った施設の整備を図ることを推進するものであり、これにより外国人の宿泊が増えることを目的としています。この法では、外国語を話せる従業員を雇用することも条件となっており、雇用の拡大にもつながります。さらに、クレジットカードシステムの普及についても検討します。

東海北陸自動車道の活用

東海北陸自動車道は平成20年7月に全線開通しましたが、まだ、白鳥以北は2車線です。現在、4車線化に向けて要望を行っているところであり、今後も引き続き要望していきます。

一方、全線開通により、北陸方面などとの広域連携が行いやすくなりました。すでに郡上市は、高岡市、南砺市と連携して台湾誘致を行い、台湾から多くの観光客が訪れるようになってきているところです。今後も沿線市町村と連携して東海北陸自動車道を最大限に活用して誘客を進めます。

公共交通機関の利便性向上

郡上市までの移動手段は自家用車が圧倒的に多い状況ですが、都会に住んでいる人の中には、車を所有しておらず、移動は公共交通機関を利用するという方が多くあります。また、ゆっくり楽しみたい、遠方であるため車ではたいへんという理由の方もあると考えます。しかし、郡上市は、公共交通機関で訪れても、バス停や駅から観光施設等へのアクセスが不便という現状にあり、公共交通機関の利便性について、鉄道やバス会社等と連携して対策を

講じます。

防犯体制等の徹底

観光客の安全を守ることも受け入れ側の重要な要素です。スキー場における盗難や釣り客の車荒らしなどに対する防犯体制、また食品衛生上の管理や新型インフルエンザなどの伝染病などに対する対策を徹底し、安心して滞在できる観光地を目指します。

第5章 ビジョンの実現のために

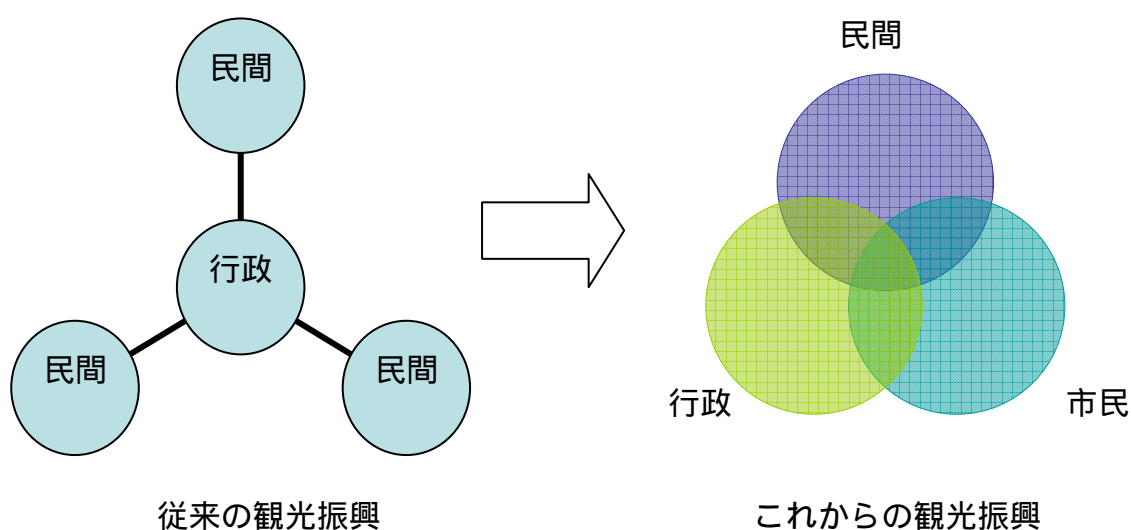
最後に、郡上市観光振興ビジョンを実現するためには、推進する母体を明確にする必要があります。この章では、推進母体と各種団体・組織の連携のあり方などを示します。

1. ビジョン推進のしくみづくり

(1) 関係機関の意識の変革と自律

今までの観光は、行政が中心となって民間組織と連携しながら行われることが多くありました。これからは、行政と民間が一体となって取り組み、民間の利点を大いに発揮できるしくみづくりを考えていきます。さらには、市民も加わり、みんなで「観光のまちをつくる」ということが重要です。

また、関係機関の職員のプロ意識の向上や、従業員がもっと地元について知ることを進めるなど、受け入れ側の姿勢の改善にも努めます。



(2) 市観光連盟と地域の観光協会

市全体の観光については市観光連盟が主体となって取り組み、地域のきめ細やかな情報収集や地域独特のイベントについては地域の観光協会が中心となって取り組んでいます。観光を目玉として邁進するためには、市観光連盟として1本化するという考え方もありますが、郡上市の観光

は広域であり、素材も地域ごとに多種多様にわたることから、地域の観光協会も存続しながら、より連携を強化する方向とします。なお、全体的な事業の見直しは行い、地域を跨いで実施できるもの、広域的に実施できるものを整理し、より効率的・効果的な事業の推進を目指します。また、積極的な営業活動を実施し、収益事業の強化を図ることで自己財源の増加を目指し協会の自立を促します。

さらには、このビジョンの計画年度は27年度までですが、観光連盟、仮称「郡上市産業振興公社」、仮称「郡上市産業支援センター」などへの観光組織の一体化や、観光協会職員の一元化など、28年度以降の体制について、観光連盟を主体として明確化します。尚、この観光連盟を郡上市観光振興の母体として位置づけます。

(3) 観光開発型第三セクター

特定の地域において観光振興を図っていくためには、推進組織が重要となります。資源を磨き上げて商品化し、観光客や旅行者へ販売・PRを行う、そして観光客を受け入れ、その結果、地域に活力が生まれ市民が潤うという一連の流れをコーディネートするものです。すでに、八幡地域では財団法人郡上八幡産業振興公社が、大和地域では郡上大和総合開発株式会社がこの役割を担っています。

新たに、白山文化を中心とした白鳥地域、高賀山や円空を中心とした美並地域の観光を強力に推進するため、組織の見直しを検討します。

2. さまざまな連携のあり方

(1) 観光事業者間の連携

事業を効率的にかつその成果をより大きくするために、また新しいメニュー開発などを行うためには、観光事業者同士の連携が必要です。特に宿泊客を増やす、滞在日数を増やすといったことは単体では難しいといえます。旅館組合や民宿組合が観光施設と共同開発したメニュー（今年度、郡上八幡旅館組合と長良川鉄道が実施している）の提供、市内の第三セクター間の連携、12を数えるスキー場、13を数える温泉施設、また多くのアウトドア事業者など同業者や観光事業者間での連携を支援

していきます。

また、地域おこし活動をすでに進めている郡上地域活性化協議会などとの連携も行います。

(2) 地域内における他産業との連携

これからの観光は、そこに住んでいる人の暮らしや文化を楽しむということが、大きな魅力として人をひきつけると考えます。この魅力を観光につなげるためには、観光以外の産業との連携が必要です。特にグリーンツーリズムを推進するためには、NPO法人や農家などとの連携が不可欠です。農林業分野と巧みに手を組んで、グリーンツーリズムを大きな観光資源として発信できるよう努めます。また、近年は福祉体験を行う福祉ツーリズムや環境保全に関わることのできる環境ツーリズムなど多様化してきており、さまざまな分野との連携を行います。また、地の物を使うことを基本として、農林業など他産業と連携し、商品の開発や販路の拡大を行い、観光消費の増大を図ります。

(3) 国・県・市外との連携

郡上市が観光のまちづくりを進めるためには、国や県との連携が不可欠です。観光立国推進基本法の第4章でも、国と地方公共団体が相協力することを定めています。国や県と連携することで、有利な制度や有効な施策の導入を図るとともに、効果的な宣伝を行います。

一例として、国土交通省が進めている観光圏()についての調査・研究や、国の施策に基づいて県が行っている外国人誘客キャンペーンへの参加などに取り組みます。

「観光圏」とは、自然、歴史、文化等において密接な関係のある観光地を一体とした区域として、その観光圏内で2泊3日以上滞る型観光に対応出来るよう、観光地の魅力を高めようとする区域を指します。

また、東海北陸自動車道の全線開通により、世界遺産の白川郷や五箇山が身近になりました。郡上市の枠を超えて他地域との連携を図ることが必要であり、観光地間バス路線やセントレア(中部国際空港)から直行の周遊バス等広域的な連携も検討します。

(4) 市外在住の郡上ファンとの連携

市外に在住しながら郡上を応援してもらえる人を増やします。すでに、ふるさと郡上会、近畿郡上会などがありますが、新たに観光面でのファンクラブ的なものを立ち上げ、郡上市を愛する方々とのお付き合いを深めるために、郡上市における旬な情報などを常に提供していきます。岐阜県人会や大学の旅行研究会などとの交流も進めます。

さらに、都市部に在住する芸能人やスポーツ選手などで、郡上に関わりのある著名な方を観光大使に依頼し、都市部でのPRの一端を担っていただけるよう働きかけます。

また、子どもの頃に印象に残った経験は大人になってもよみがえります。市外の小・中学生が郡上市を訪れる機会に、特にお年寄りとのふれ合いの場面の提供や、思い出づくりを行うことで、リピーターになってくれることを目指します。

(5) 友好交流都市との連携

郡上市においては、合併前からの観光交流として八幡地域における「郡上おどり in 青山」から始まった東京都港区との交流、また白鳥地域における三重県志摩市との交流があります。今後もさらに交流を通じて郡上市の情報を発信していきます。

3. 情報発信

(1) 市民の市内観光奨励

郡上市民でありながら、市内の観光資源についてまだ知らない人が少なくないと考えています。特に、自分の地域（合併前の町村）のことは概ね知っていても、他地域については知らないことが多いようです。ふるさとの観光資源がいかに素晴らしいものであるかに気づき、守らなければならないかという意識を高めることは、さらなる郡上市への愛着心の育みへとつながります。このことを、子どもたちに伝えることも必要です。

一方、口コミは大きな宣伝手段です。市民みんなが地元のことを知っ

て広告塔となり、全国へ郡上市の情報を発信するため、「市外観光の前に市内観光」をキャッチフレーズとして市民の市内観光を奨励します。

(2) 国内外観光客の誘致活動

観光客の増加を目指して、郡上市観光連盟などが主体となり、国内・国外の両面でキャンペーン活動を展開します。

国内観光客の誘致

観光客がより長く郡上に滞在し、かつ満足いただける企画を立案し、その企画を基に観光連盟・観光協会、市内観光事業者と連携し、実りのあるキャンペーン活動を展開します。特に閑散期の宿泊施設の稼働率を上げるための活動を強化します。

地域の伝統文化を生かした、住民参加型の観光行事の実施と情報発信（ex.城下町郡上八幡お雛まつり）

地域内の観光資源を結ぶ交通手段の整備とPR

宿泊施設の魅力向上を図る企画「おらが宿自慢運動（仮称）」の展開
郡上の夜遊（ナイトスポット）の魅力向上

宿泊施設と市内飲食店等が連携し、宿泊施設チェックイン後に楽しめる周遊コースの構築（温泉、郷土料理店、居酒屋、ライトアップ施設等）

長良川鉄道を利用した観光業者との連携による旅の企画

長期滞在者の受け入れ体制の整備

外国人観光客の誘致活動

国の施策、岐阜県の誘客活動、さらには広域協議会と連携をしながら事業展開します。また、郡上市観光連盟や市内観光事業者の意見も広く取り入れながら郡上市単独事業、各種団体事業、広域協議会事業としての海外市場調査及び開拓を行います。この誘客活動をとおして日本固有の歴史・伝統文化と美しい自然を今も残す郡上の豊かさを市民に認識していただき、海外観光客に情報発信する活動を実施します。この事業を通じて観光事業者が国内市場と同様、積極的な営業展開を実施できるよう支援します。

東アジア（中国・台湾・香港等）への誘客活動

城下町散策や雪遊びなどと宿泊施設をセットとした団体旅行向け企画の商品化により、観光事業者による積極的な営業展開を支援します。

現在実施している団体：高岡南砺郡上台湾誘致協議会

岐阜下呂郡上観光宣伝協議会

東南アジア（シンガポール・タイ等新規市場）への誘客活動

現在市場開拓期のため、岐阜県や市内観光事業者の誘客活動と連携しながら、「観光」「食」「ものづくり」をテーマにした団体旅行商品を現地旅行博でPRします。

現在実施している団体：郡上市

オーストラリアへの誘客活動

現在“ウィンターリゾート郡上”の取り組みの一環として、スノーボードワールドカップを開催するなど、郡上エリアスキー場の国際的な知名度向上に取り組んでいます。市内スキー場、宿泊施設を含めた受け入れにおける理解と体制の充実を主眼に置き、平行して誘致活動に取り組めます。

現在実施している団体：郡上市観光連盟

受け入れ体制整備について

誘致活動と平行して行なわなければならないのが受け入れ体制の整備です。日本を代表する地域資源が数多くありながら、それを国際的に紹介できる媒体が観光施設、宿泊施設などにはありません。将来増加するであろう外国人観光客が訪問した際に、少しでも郡上の文化を理解し、再度訪問したくなるような媒体(施設内表示、市内看板、パンフレット等)が必須です。公共交通機関でも同様のことがいえます。また、地域医療機関の外国語対応なども必要とされ、地域ぐるみで外国人観光客の対応を考える必要性があることから、各分野の幅広い意見を取り入れながら受け入れ体制整備の協議を進めます。

(3) フィルムコミッションの推進

郡上市を舞台にしたドラマが平成20年夏に市内で撮影され、平成21年6月にテレビ放映されました。ホームページへのアクセス数の伸びや電話での問合せの増加などから、その反響は大きく観光客の誘客にも繋

がっています。また、平成21年夏にも郡上市を舞台にした映画の撮影が市内で行われ、平成22年3月から郡上市で先行上映、5月からは全国公開される予定です。このように、郡上市の雄大な自然や美しい風景、情緒ある町並みやおどり、歴史的施設などを生かし積極的にロケーション撮影の誘致を行うことで郡上市のPRに努めます。また、撮影が行われた作品を見ていただいた方々を、いかにして呼び込むか、ロケ地をいかにして守っていくかということも重要であると考えます。ロケを行う場合には、道路使用による交通規制やエキストラ出演、施設借用などが生じますが、市民のみなさんのご協力をいただきながら進めていきます

(4) 情報提供の一元化とPRの強化

郡上市の観光情報の提供は、観光連盟及び地域の観光協会それぞれで行っている現状です。このため、情報を得たいときにどこへ問い合わせればよいのか分かりにくい状況があります。特に宿泊に関する問い合わせは、各観光協会がそれぞれの地域内の情報しか把握していないという現状であり、自分の地域が満室の場合は他の地域へその都度問い合わせるといったレベルの低い案内となっています。この旧態システムから脱却し、情報を一元化して窓口を一本化することを進めます。

また、提供する情報内容は、「多くの人へ知らせる」、「郡上市を訪ねようとしている人へ知らせる」、「すでに郡上市に来ている人に知らせる」など、場面に応じたものとなるように努めます。

ターゲットを絞り込んだ情報提供も効果的であり、女性向け商品であれば女性誌に、キャンプ場情報はアウトドア情報誌にといった具合に宣伝媒体を選択します。

いうまでもなく、新聞、雑誌、テレビなどのメディアとインターネットを使ったPRは大きな効果があります。パブリシティの手法でこれらを最大限に活用し、年間を通じて全国へ情報の発信を行い、「郡上」がメジャーになるよう努めていきます。